

史 跡

上之国勝山館跡 XIV

——平成4年度発掘調査環境整備事業概報——



1993・3

上ノ国町教育委員会

史 跡

上之国勝山館跡 XIV

—平成4年度発掘調査環境整備事業概報—

1993・3

上ノ国町教育委員会

序

史跡上之国勝山館跡環境整備事業は、昭和54年の開始以来14年を経過しました。

この間の調査で百数十年の長期に亘る館の存続と各種の遺構、大量・多様な内容の遺物等を知り得るところとなりました。

私共の町では近い未来に本格的な史跡の整備を希望しており、本年度も館の北西部平坦面での遺構確認調査を実施しました。大型の井戸跡、銅細工の作業場跡などの発見があり、館の中の新しい一面を知ることができました。

勝山館調査研究専門員としてご指導をお願いしている朝尾直弘、網野善彦、石井進、榎森進、仲野浩の諸先生には、これまでの調査をもとにした勝山館跡の検討をはじめいただきました。

年度毎の調査結果に検討を重ね、史跡の整備を確かなものとして参りたいと願うところであります。そしてまた、平成10年開館を目途に計画中の「中世歴史資料館」の構成にも反映させて参りたいと思うところであります。

今年度も事業の実施にあたり、文化庁・北海道教育庁文化課をはじめとする関係機関、諸先生から数多くのご指導と格別のご高配を頂戴することができました。深く感謝申し上げるものであります。

今後もこの事業を継続して推進して参りたく思うところでありますが、なお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成5年3月

北海道檜山郡上ノ国町教育委員会

教育長 和泉定夫

本文目次

序

本文目次／挿図目次／表目次／写真図版目次
例言

I 調査の概要.....	1
II 遺構確認調査.....	4
1 調査目的.....	4
2 検出遺構と出土遺物.....	4
(1) 位置・概要.....	4
(2) 層序.....	4
(3) 段・柱列他.....	4
(4) 鋳造跡.....	4
a 焼土・溝・土壤.....	4
b 出土遺物 鋳造関係遺物 鉄製品 陶磁器.....	4
(5) 壓穴状土壤・井戸跡.....	24
(6) 掘立柱建物跡.....	24
(7) 壓穴建物跡、土壤・溝.....	38
(8) 横列.....	44
(9) 遺物.....	44
III 小括.....	51
IV 保存処理.....	53
V まとめ.....	53

挿図目次

第1図 遺跡地形図、調査区位置図.....	2
第2図 調査区範囲図.....	3
第3図 調査区土層堆積図①.....	5
第4図 調査区土層堆積図②.....	9
第5図 調査区遺構配置図.....	13
第6図 鋳造跡平面図 遺物分布図1(銅鋳造関係).....	15
第7図 鋳造跡平面図 遺物分布図2(鉄製品).....	18
第8図 鋳造跡平面図 遺物分布図3(陶磁器).....	19
第9図 鋳造跡出土遺物他.....	20
第10図 鋳造跡出土遺物.....	21
第11図 鋳造跡出土遺物.....	22
第12図 壓穴状土壤1平面図.....	23
第13図 壓穴状土壤・井戸出土遺物.....	24
第14図 井戸跡平面図.....	25

第15図 第1号建物跡想定図.....	27
第16図 第2号建物跡想定図.....	29
第17図 第3号建物跡想定図.....	31
第18図 第4号建物跡想定図.....	32
第19図 第5号建物跡想定図.....	33
第20図 第6号建物跡想定図.....	34
第21図 第7号建物跡想定図.....	35
第22図 第8号建物跡想定図.....	36
第23図 第9号建物跡想定図.....	37
第24図 第40、41、42号堅穴遺構平面図.....	39
第25図 第45号堅穴遺構平面図.....	41
第26図 第43、44、46、47号堅穴遺構平面図.....	42
第27図 堅穴遺構出土遺物.....	43
第28図 土壌7、9平面図他.....	45
第29図 土壌13、14、17平面図他.....	46
第30図 土壌18、20、31、42平面図他.....	47
第31図 土壌・柱穴出土遺物.....	49
第32図 調査区出土遺物.....	50

表目次

表1 鋳造跡出土遺物集計表(鋳冶・ 鋳造関連遺物、銅・鉄製品他).....	17
表2 鋳冶・鋳造跡出土陶磁器集計表.....	22
表3 出土遺物集計表(陶磁器).....	52
表4 出土遺物集計表(鉄製品他).....	52

附図 調査区遺構配置図

写真図版目次

P L. 1 遺跡遠景・遺構検出状況	
P L. 2 遺構検出状況他	
P L. 3 遺構調査状況	
P L. 4 段・柱・礎石列他	
P L. 5 鋳冶・鋳造跡	
P L. 6 鋳冶・鋳造跡	
P L. 7 壓穴状土壤・井戸跡	
P L. 8 井戸・土壤跡	
P L. 9 遺構検出状況	
P L. 10 遺構検出状況	
P L. 11 遺構検出状況	
P L. 12 遺構検出状況	
P L. 13 遺構検出状況(土層堆積)	
P L. 14 横列跡	

例

- 本書は史跡上ノ国勝山館跡の平成4年度発掘調査及び環境整備事業について概要をまとめたものである。
- 本年度の発掘調査は次の体制でのぞんだ。

調査主体者 上ノ国町教育委員会
教育長 和泉定夫
指導 上ノ国町文化財保護審議会特別委員
北海道大学教授 足達富士夫、文化学院
講師 鈴木直
勝山館跡調査研究専門員 山形大学教授
仲野浩、東北学院大学教授 榎森進、國
立歴史民俗博物館長 石井進、神奈川大
学短期大学部教授 網野善彦、京都大学
教授 朝尾直弘
- 主管 上ノ国町教育委員会文化課 課長 関
登志夫、主事 笹浪甲衛
勝山館跡修景技術員（上ノ国町建設課長）山
崎重任
発掘担当者 学芸員 松崎水馳
調査員 学芸員 斉藤邦典
調査補助員 山崎洋子 笠谷奈智子 竹内江
美子、荒木志伸 伊藤瑞恵 加藤厚子 杉
村春恵 南部みどり 平松左枝子（お茶の
水女子大学）
作業員 浅原すみ 川合冴子 木村洋子 杉
村八重子 薄田百合子 鈴木千春 住吉春
子 竹内正章 出村喜作 長尾咲子 南部
谷嶽 沼沢国枝 野崎睦子 八田揚子 松
本清 南谷澄子 佐藤恵利子
- 本書の編集は松崎、齊藤が協議の上松崎が行
った。
本書の作成はI、遺物観察・集計表を山崎、
IVを齊藤、他を松崎の分担で行った。

言

- 挿図の作成は担当者の指示により、補助員作
業員が行った。挿図中の方位は真北を示す。
- 土層の土色は「新版標準土色帖」（農林水産技
術会議事務局）を、遺物の色調名は「標準色
彩図表A」（日本色研事業株式会社）を用い、
目測で比定した。
- 調査にあたっては次の関係機関と各位に多大
な御指導と御援助を賜った。

文化庁記念物課 田中哲雄 加藤尤彦 服部英
雄 増瀬徹 井上和人 西田健彦 北海道教
育厅文化課 中村福彦 木村尚俊 種市幸生
大沼忠春 桧山教育局 牧野義則 伊賀治康
北海道大学 天野哲也 専修大学北海道短期
大学 俵浩三 兩館大学 坂田聰 弘前大学
齊藤利男 東京都立大学 峰岸純夫 昭和女子
大学 平井聖 明治大学 矢島國雄 横浜市立
大学 今谷明 名古屋大学 小谷凱宜
京都造形芸術大学 内田俊秀 大阪市立大学
河音能平 東洋文庫 渡辺兼庸 国立歴史民
俗博物館 吉岡康暢 東京国立博物館 原田
一敏 今井敦 国立民族学博物館 大塚和義
北海道開拓記念館 山田悟郎 小林行雄 帯
広百年記念館 内田裕一 江戸東京博物館
齊藤慎一 ミュージアム知覧 上田耕 青森
県教育厅文化課 上野茂樹 東京都埋蔵文化
財センター 松崎元樹 小樽市教育委員会
石川直幸 秋田城跡調査事務所 小松正夫
松前町教育委員会 久保泰 八雲町教育委員
会 三浦孝一 栄田信一 木古内町教育委員
会 菅野文二 三上英則 木元豊 乙部町教
育委員会 森広樹 今金町教育委員会 寺崎
康史 波岡町 工藤清泰 中里町教育委員会
齊藤淳 三春町教育委員会、仲田茂司、半沢
紀

I 調査の概要

1 調査

勝山館の主体部は三段の平坦面から形成されている。自然の谷と前後の空堀、櫛列等によって囲まれた平坦面に建物が建てられている。

第一平坦面は正面空堀の真上の台地で約5,000m²。二段目の平坦面は約7,000m²。台地が狭まる第三平坦面は約3,500m²である。

本年度の調査は一昨年、昨年に続き最も広い第二平坦面の北西部約1,100m²を実施した。

調査は5月25日～12月3日まで行った。調査方法は従来通り20m×20mの大グリッドを分割した4m×4mの小グリッド方式とした。又建物の概要を知るため柱穴配置略図1/40を作成し柱穴間の重複、覆土の状態を観察しながら柱穴を掘り下げた。尚焼土、土壙等は半数セクション図作成後掘り下げる土壤のサンプリングを行った。遺物取上げはI、II層は4m×4mのグリッドを4分割し、2m×2m毎の一括取り上げ方式とした。遺構面であるIII層は実測図を作成後、レベルを附して取り上げた。遺物取上げは主に縮尺1/40の平板実測、1/10、1/20その他による平板及び造り方測量とした。

5月 調査区内グリッド設定、表土除去。(17M21、18M6、11、16) 部分試掘、18M1区で砂利面確認。

6月 発掘予定区全面の表土除去作業を終える。17N25、18N5、17M21、18M1区で広範囲に砂利が分布し、主に鉄等の遺物の多いことが明らかになる。柱穴、土壙その他の遺構が検出される。柱穴配置略図作成。東西に3つのトレーナー。(17M25、18M5、10、15)、(17L21、18L1、6、11) (17L22、18L2、7、12)を入れ併せて土層観察実測を行う。

7月 大型土壙が三基検出されるが上部に多量の大穢が詰る土壙②は井戸跡と判る。

8月 井戸跡が深さ5m弱となりローソクで酸素状態を確認しながらの作業となる。8月24日お茶の水女子大生3名発掘協力のため来町。24日～29日迄作業に加わる。8月29日井戸跡完掘、深さ約5m50cm。8月31日お茶の水女子大生第2陣3名(8月31～9月5日)来町。

9月 堅穴No.40～45まで検出。堅穴45には大量の炭化材がみられ、焼失倒壊したものと推される。

10月 堅穴45焼失炭化材の残存状態が良く、保存処理のための前段処理を行う。

堅穴46、47、溝1～17、土壙1～41検出。うち土壙31は幅約100cm×深さ130cmとやや大型で今年度5個の類例を見る。10月26日土壙31をセクション実測後掘り下げたところ曲物が玉砂利の上に据えられる。井筒か?

11月 堅穴45の炭化材取上げ、土壙42～55検出。各堅穴より実測開始。11月12日発掘区全景写真撮影。11月29日実測、レベリング作業終える。

12月3日 埋戻し、用具点検、遺物、土壤サンプル等の運搬を終え終了。

2. 基本層序

I層 表土層、10YR3/3暗褐～10YR4/4褐色シルト。草根多量。やや密。

II層 節廃施後の自然堆積層。10YR3/3暗褐～10YR4/4褐色シルト。やや密。炭化物、Os-aの混入。細分される。Os-a純層も含まれる。

III層 節廃能時の整地盛土層。10YR4/4褐色～10YR5/8黄褐色。密、ソフトローム粒、炭化物等多量に含有する。細分される。

IVa層 繩文期以後より館が機能する直前までの自然堆積層。黒、シルト～7.5YR3/3暗褐色、シルト。従来までのIVb層はIVa-1としIVa層の中に含めた。

IVb層 10YR6/6明黄褐色火山灰。やや密。

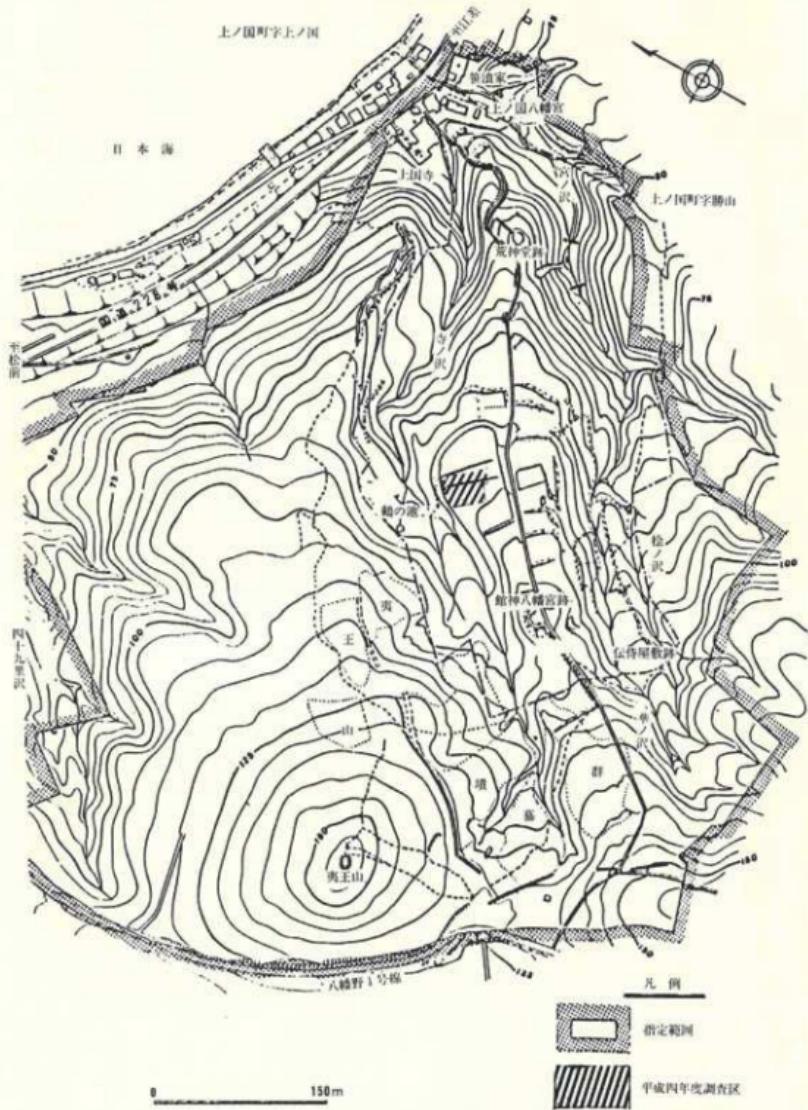
IVc層 繩文期包含層。10YR4/6褐色、シルト、やや密。

V層 10YR5/4にぶい黄褐色～10YR5/6黄褐色、ソフトローム。

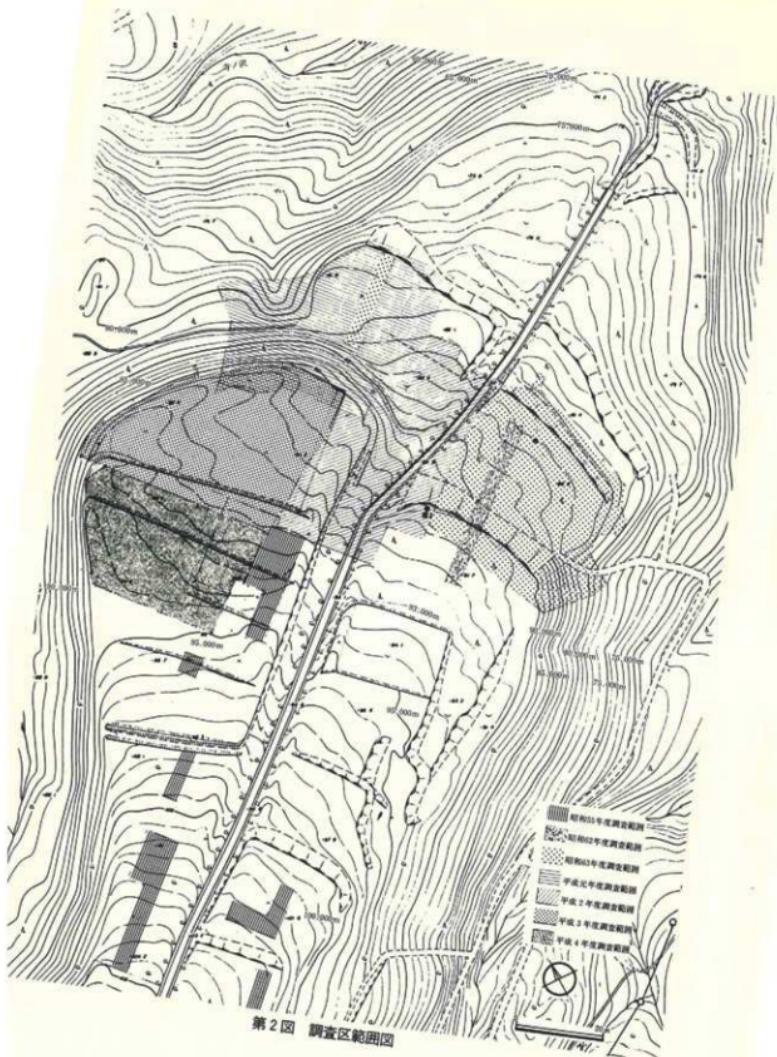
VI層 ハードローム。

3. 保存処理

勝山館出土木製品等の保存処理を行った。



第1図 遺跡地形図、調査区位置図



第2図 調査区範囲図

II 遺構確認調査

1 調査目的

平成3年度の調査によって“客殿”とも推される大型の建物跡が見つかったが、その敷地(地割)の南西界は調査区外と推され、建物規模等も一部曖昧なままであった。この為今年度はこの大型建物跡の構えられる地割の範囲とその内部の構成、それに隣接する地割とそこでの建物構成その他を知ることを目的として調査を開始した。

2 掘出遺構と出土遺物

(1) 位置・概要

平成4年度は前年度に引続き第二平垣面のうち館の主体部中央を縦貫する自然研究路(旧御代参道路)の北西中央部1,100m²を調査の対象とした。北東は前年度調査区、南東は昭和55年度調査区に連続し、一部重複する。

調査区北東部で南東～北西方向の段とそれに併行する柱列が見られ、前年度調査区の建物跡が立つ敷地(地割)の境界と推された。この地割内からは銅鑄造を主とした(銅細工)作業場跡、堅穴状土壤、井戸跡等が見つかった。段・柱列の上、(南西側)に6区画程の地割面と一部それに跨り、8棟の掘立柱の建物跡、堅穴建物跡10基、土壤55基、地割を画する溝、掘立柱建物の柱穴等を検出した。又台地北西端には溝に柱を立てた欄列が前年度調査区から続いて検出された。

(2) 番序

遺構の形成等を把握すべく調査区に縦横して土層観察面を設定し記録した(第3、4図)。又遺構は確認した時点で土層観察面を設け記録することとした。

(3) 段・柱列他

調査区北東部に南東～北西方向に0.2～0.8mの段差があり、段上南東半に5個の平な石からなる礎石列、その南西に中間に折れを持つ柱列が並ぶ。礎石列は6.6尺等間3.5間が検出できた(PL 4-2)。最北西部の礎石は井戸跡の肩にかかる為井戸の掘り上げ時には取りはずした(PL 4-1)。この礎石列に平行して焼土、炭化材が見られ(同-2)たが、その下位で上述の柱列の一部をなす柱穴が見つかっている。柱列は6.6尺等間で井戸を中心にも東へ6間、北西へ10.5間連続し、両者間は5.9尺

の距離をもって直角に折れる。又やや北西よりの段直上に6個の石が踏み石状に並べられている。この段が前年度調査区に続く地割を画する段と推される。

(4) 銅冶、鉄造跡(第6～8図)

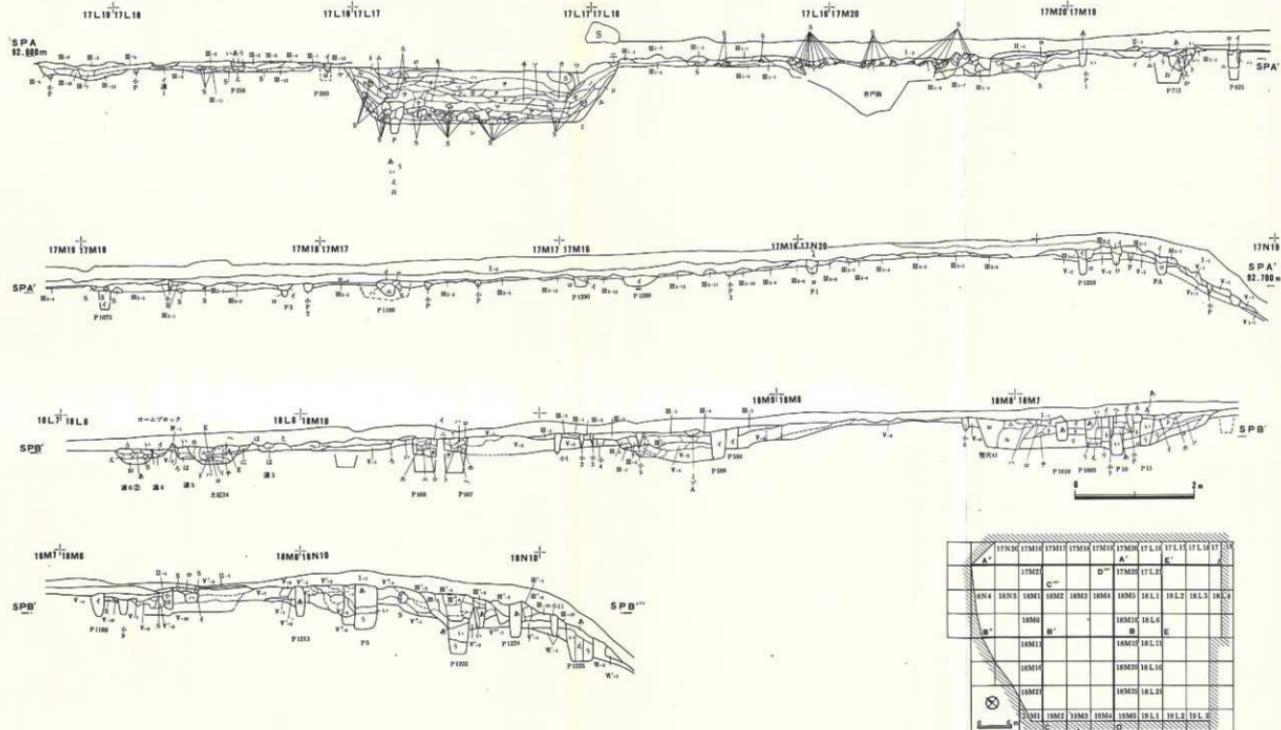
a 焼土・溝・土壤

調査区北の隅18N 5区周辺、段の直下に6×5m程のL字形の低い一段があり、5×6m程の範囲に径2cm内外の小石(砂利)が10～20cm前後の厚さで堆積している。その中央南北方向に焼土層がみられ、北西寄り等に焼失材と思われる炭化物があった。砂利層の下位には先の段に沿った小柱穴、礎石かと推される偏平な石、踏石状の集石等が見られたが建物跡としてのまとまりは見え得なかった。砂利除去後の下面精査で土壤9と浅い溝が確認された。なお中央焼土層には炭化物等も含まれるが、砂利面下での赤変等は顯著ではない。

この一画で羽口、るっぽ、銅地金、八双金物他の銅製品、釘、小札他鉄製品、陶磁器等が出土した。各々の出土位置はほぼ砂利層中に含まれ、層位的には区別することは難しく平面的な広がりもほぼ同じ様相を示している(第6～8図)。

b 出土遺物

銅鑄造関係遺物(第9図)：1は粘土製羽口。長軸10.5cm、先端部径4×4.2cm、基部6.4×6.5cmと基部の開く円筒形でほぼ中央に同じく1.6×1.7、1.8×1.9cmで中間部がやや細くなる空気孔が穿たれる。先端平面部は熱変容出し、気泡を生じている。基部平面は平滑に調整され、空気孔周囲が僅かに隆起する。体部は出土時下位の(地面に接していた)側面が暗褐色を呈し、上位が明るい膚色である。この上下に対する一側面に巾2.5、長さ5.5cm程の灰黒色の発色が見られる。体部は先端から2～3cm程の四周が熱変し、一部発泡しているが、上下が側方より幾分広く熱変し、気泡も多い。又基部を下に垂直にすると先端は下位側が0.5cm弱短い。側面基部直近に赤褐色の付着物が見られる。胎土に小石を噛む。2、3はるっぽである。2は径8cm、器壁1.1cmで口唇と底部中央は厚くなる、胎土に砂利が含まれ、6×2cm前後の初痕が数個みられる。内面口端まで赤褐・黒



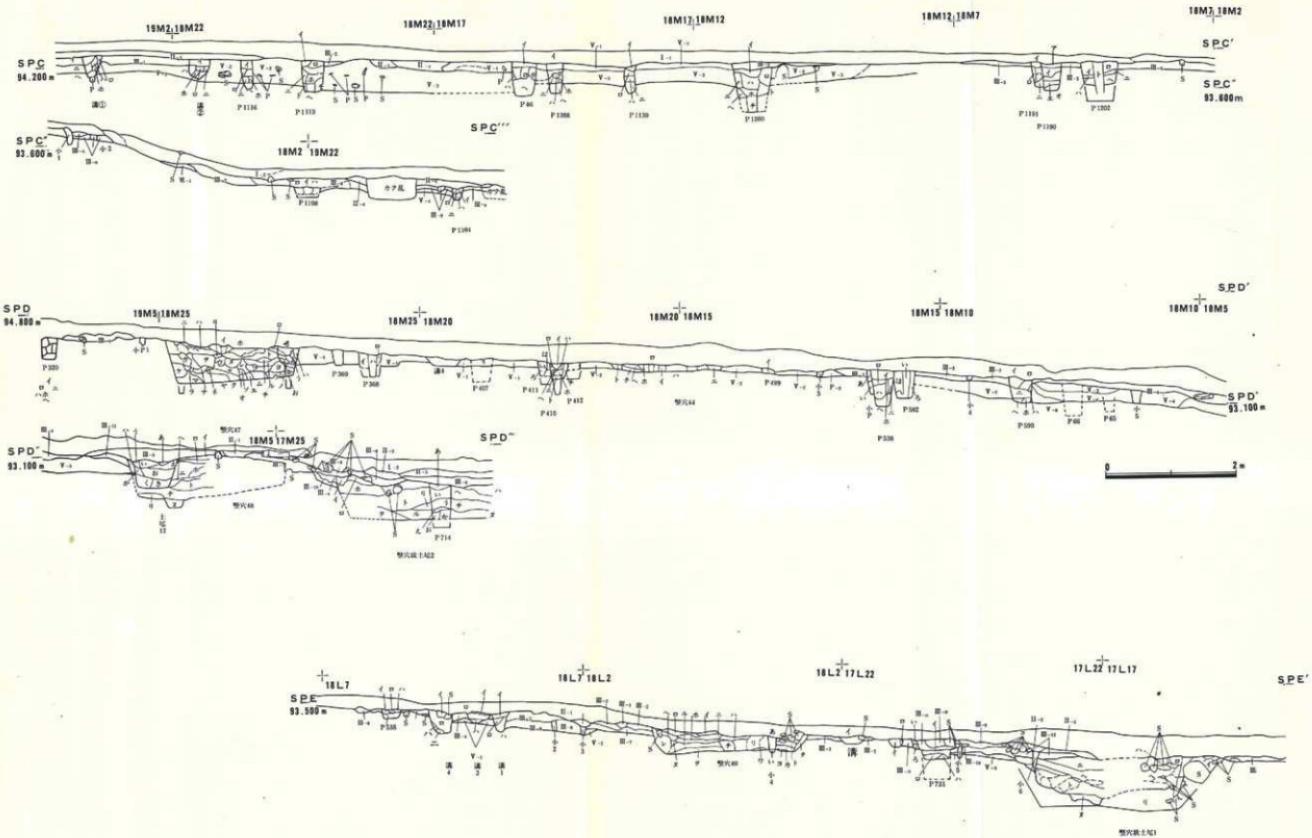
第3図 調査区土層堆積図①

第3図SPA-A' (17L19~17N19) 南北ライン西壁土層

SPB-日立（1991.7.6～1991.8.1）南北ライン西幹支線

V-110YR	弱酸性 弱酸性 VI-1	弱酸性 弱酸性 弱酸性	粘質多じり ロームプロッタ 湿ってやや固子状 やや粗 S ややソフト やや湿った土 C 地下鉢 全面乾土 ハード
---------	--------------------	-------------------	--

土壌1イリYR付近における黄褐色、褐、褐色 地盤	砂土粒	C微量	基盤砂	基盤柱	ローム
○ 黄褐色	○	○	○	○	○
△ 褐色	△	△	△	△	△
△ 褐色	△	△	△	△	△



第4図 調査区土層堆積図②

第4回 SPC~C^{''} (18M 2~17M22) 東西ライン北壁土層

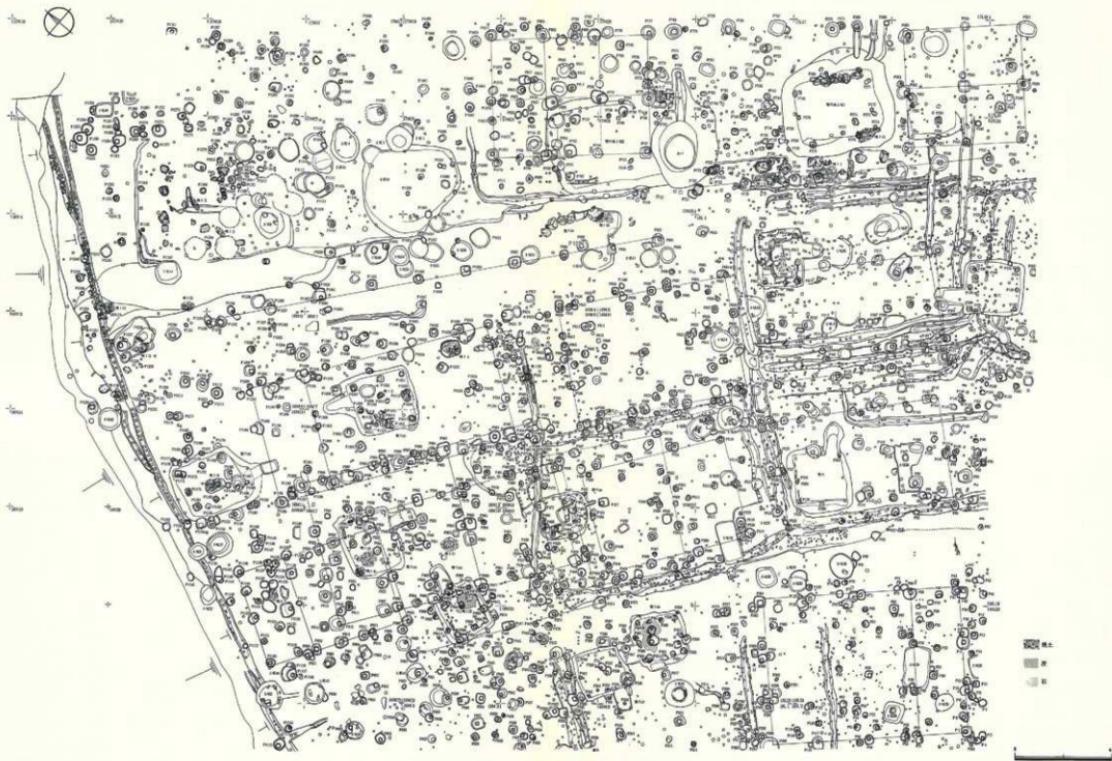
1-187 開花期	開花期	全株	根付なし
II-1	1月	土	常温
II-2	2月	土	常温
II-3	3月	土	C少
II-4	4月	土	C常温
II-5	5月	土	常温
II-6	6月	土	常温
II-7	7月	土	常温
II-8	8月	土	常温
II-9	9月	土	常温
II-10	10月	土	常温
II-11	11月	土	常温
II-12	12月	土	常温
V-1	1月	土	常温
V-2	2月	土	常温
V-3	3月	土	常温
V-4	4月	土	常温
V-5	5月	土	常温
V-6	6月	土	常温
V-7	7月	土	常温
V-8	8月	土	常温
V-9	9月	土	常温
V-10	10月	土	常温
V-11	11月	土	常温
V-12	12月	土	常温
VI-1	1月	土	常温
VI-2	2月	土	常温
VI-3	3月	土	常温
VI-4	4月	土	常温
VI-5	5月	土	常温
VI-6	6月	土	常温
VI-7	7月	土	常温
VI-8	8月	土	常温
VI-9	9月	土	常温
VI-10	10月	土	常温
VI-11	11月	土	常温
VI-12	12月	土	常温
VII-1	1月	土	常温
VII-2	2月	土	常温
VII-3	3月	土	常温
VII-4	4月	土	常温
VII-5	5月	土	常温
VII-6	6月	土	常温
VII-7	7月	土	常温
VII-8	8月	土	常温
VII-9	9月	土	常温
VII-10	10月	土	常温
VII-11	11月	土	常温
VII-12	12月	土	常温
VI-1-137 開花期	開花期	全株	根付なし
VI-1	1月	土	常温
VI-2	2月	土	常温
VI-3	3月	土	常温
VI-4	4月	土	常温
VI-5	5月	土	常温
VI-6	6月	土	常温
VI-7	7月	土	常温
VI-8	8月	土	常温
VI-9	9月	土	常温
VI-10	10月	土	常温
VI-11	11月	土	常温
VI-12	12月	土	常温
VII-1	1月	土	常温
VII-2	2月	土	常温
VII-3	3月	土	常温
VII-4	4月	土	常温
VII-5	5月	土	常温
VII-6	6月	土	常温
VII-7	7月	土	常温
VII-8	8月	土	常温
VII-9	9月	土	常温
VII-10	10月	土	常温
VII-11	11月	土	常温
VII-12	12月	土	常温
P-1	1月	土	常温
P-2	2月	土	常温
P-3	3月	土	常温
P-4	4月	土	常温
P-5	5月	土	常温
P-6	6月	土	常温
P-7	7月	土	常温
P-8	8月	土	常温
P-9	9月	土	常温
P-10	10月	土	常温
P-11	11月	土	常温
P-12	12月	土	常温
P-13	1月	土	常温
P-14	2月	土	常温
P-15	3月	土	常温
P-16	4月	土	常温
P-17	5月	土	常温
P-18	6月	土	常温
P-19	7月	土	常温
P-20	8月	土	常温
P-21	9月	土	常温
P-22	10月	土	常温
P-23	11月	土	常温
P-24	12月	土	常温
P-25	1月	土	常温
P-26	2月	土	常温
P-27	3月	土	常温
P-28	4月	土	常温
P-29	5月	土	常温
P-30	6月	土	常温
P-31	7月	土	常温
P-32	8月	土	常温
P-33	9月	土	常温
P-34	10月	土	常温
P-35	11月	土	常温
P-36	12月	土	常温
P-37	1月	土	常温
P-38	2月	土	常温
P-39	3月	土	常温
P-40	4月	土	常温
P-41	5月	土	常温
P-42	6月	土	常温
P-43	7月	土	常温
P-44	8月	土	常温
P-45	9月	土	常温
P-46	10月	土	常温
P-47	11月	土	常温
P-48	12月	土	常温
P-49	1月	土	常温
P-50	2月	土	常温
P-51	3月	土	常温
P-52	4月	土	常温
P-53	5月	土	常温
P-54	6月	土	常温
P-55	7月	土	常温
P-56	8月	土	常温
P-57	9月	土	常温
P-58	10月	土	常温
P-59	11月	土	常温
P-60	12月	土	常温
P-61	1月	土	常温
P-62	2月	土	常温
P-63	3月	土	常温
P-64	4月	土	常温
P-65	5月	土	常温
P-66	6月	土	常温
P-67	7月	土	常温
P-68	8月	土	常温
P-69	9月	土	常温
P-70	10月	土	常温
P-71	11月	土	常温
P-72	12月	土	常温
P-73	1月	土	常温
P-74	2月	土	常温
P-75	3月	土	常温
P-76	4月	土	常温
P-77	5月	土	常温
P-78	6月	土	常温
P-79	7月	土	常温
P-80	8月	土	常温
P-81	9月	土	常温
P-82	10月	土	常温
P-83	11月	土	常温
P-84	12月	土	常温
P-85	1月	土	常温
P-86	2月	土	常温
P-87	3月	土	常温
P-88	4月	土	常温
P-89	5月	土	常温
P-90	6月	土	常温
P-91	7月	土	常温
P-92	8月	土	常温
P-93	9月	土	常温
P-94	10月	土	常温
P-95	11月	土	常温
P-96	12月	土	常温
P-97	1月	土	常温
P-98	2月	土	常温
P-99	3月	土	常温
P-100	4月	土	常温
P-101	5月	土	常温
P-102	6月	土	常温
P-103	7月	土	常温
P-104	8月	土	常温
P-105	9月	土	常温
P-106	10月	土	常温
P-107	11月	土	常温
P-108	12月	土	常温
P-109	1月	土	常温
P-110	2月	土	常温
P-111	3月	土	常温
P-112	4月	土	常温
P-113	5月	土	常温
P-114	6月	土	常温
P-115	7月	土	常温
P-116	8月	土	常温
P-117	9月	土	常温
P-118	10月	土	常温
P-119	11月	土	常温
P-120	12月	土	常温
P-121	1月	土	常温
P-122	2月	土	常温
P-123	3月	土	常温
P-124	4月	土	常温
P-125	5月	土	常温
P-126	6月	土	常温
P-127	7月	土	常温
P-128	8月	土	常温
P-129	9月	土	常温
P-130	10月	土	常温
P-131	11月	土	常温
P-132	12月	土	常温
P-133	1月	土	常温
P-134	2月	土	常温
P-135	3月	土	常温
P-136	4月	土	常温
P-137	5月	土	常温
P-138	6月	土	常温
P-139	7月	土	常温
P-140	8月	土	常温
P-141	9月	土	常温
P-142	10月	土	常温
P-143	11月	土	常温
P-144	12月	土	常温
P-145	1月	土	常温
P-146	2月	土	常温
P-147	3月	土	常温
P-148	4月	土	常温
P-149	5月	土	常温
P-150	6月	土	常温
P-151	7月	土	常温
P-152	8月	土	常温
P-153	9月	土	常温
P-154	10月	土	常温
P-155	11月	土	常温
P-156	12月	土	常温
P-157	1月	土	常温
P-158	2月	土	常温
P-159	3月	土	常温
P-160	4月	土	常温
P-161	5月	土	常温
P-162	6月	土	常温
P-163	7月	土	常温
P-164	8月	土	常温
P-165	9月	土	常温
P-166	10月	土	常温
P-167	11月	土	常温
P-168	12月	土	常温
P-169	1月	土	常温
P-170	2月	土	常温
P-171	3月	土	常温
P-172	4月	土	常温
P-173	5月	土	常温
P-174	6月	土	常温
P-175	7月	土	常温
P-176	8月	土	常温
P-177	9月	土	常温
P-178	10月	土	常温
P-179	11月	土	常温
P-180	12月	土	常温
P-181	1月	土	常温
P-182	2月	土	常温
P-183	3月	土	常温
P-184	4月	土	常温
P-185	5月	土	常温
P-186	6月	土	常温
P-187	7月	土	常温
P-188	8月	土	常温
P-189	9月	土	常温
P-190	10月	土	常温
P-191	11月	土	常温
P-192	12月	土	常温
P-193	1月	土	常温
P-194	2月	土	常温
P-195	3月	土	常温
P-196	4月	土	常温
P-197	5月	土	常温
P-198	6月	土	常温
P-199	7月	土	常温
P-200	8月	土	常温
P-201	9月	土	常温
P-202	10月	土	常温
P-203	11月	土	常温
P-204	12月	土	常温
P-205	1月	土	常温
P-206	2月	土	常温
P-207	3月	土	常温
P-208	4月	土	常温
P-209	5月	土	常温
P-210	6月	土	常温
P-211	7月	土	常温
P-212	8月	土	常温
P-213	9月	土	常温
P-214	10月	土	常温
P-215	11月	土	常温
P-216	12月	土	常温
P-217	1月	土	常温
P-218	2月	土	常温
P-219	3月	土	常温
P-220	4月	土	常温
P-221	5月	土	常温
P-222	6月	土	常温
P-223	7月	土	常温
P-224	8月	土	常温
P-225	9月	土	常温
P-226	10月	土	常温
P-227	11月	土	常温
P-228	12月	土	常温
P-229	1月	土	常温
P-230	2月	土	常温
P-231	3月	土	常温
P-232	4月	土	常温
P-233	5月	土	常温
P-234	6月	土	常温
P-235	7月	土	常温
P-236	8月	土	常温
P-237	9月	土	常温
P-238	10月	土	常温
P-239	11月	土	常温
P-240	12月	土	常温
P-241	1月	土	常温
P-242	2月	土	常温
P-243	3月	土	常温
P-244	4月	土	常温
P-245	5月	土	常温
P-246	6月	土	常温
P-247	7月	土	常温
P-248	8月	土	常温
P-249	9月	土	常温
P-250	10月	土	常温
P-251	11月	土	常温
P-252	12月	土	常温
P-253	1月	土	常温
P-254	2月	土	常温
P-255	3月	土	常温
P-256	4月	土	常温
P-257	5月	土	常温
P-258	6月	土	常温
P-259	7月	土	常温
P-260	8月	土	常温
P-261	9月	土	常温
P-262	10月	土	常温
P-263	11月	土	常温
P-264	12月	土	常温
P-265	1月	土	常温
P-266	2月	土	常温
P-267	3月	土	常温
P-268	4月	土	常温
P-269	5月	土	常温
P-270	6月	土	常温
P-271	7月	土	常温
P-272	8月	土	常温
P-273	9月	土	常温
P-274	10月	土	常温
P-275	11月	土	常温
P-276	12月	土	常温
P-277	1月	土	常温
P-278	2月	土	常温
P-279	3月	土	常温
P-280	4月	土	常温
P-281	5月	土	常温
P-282	6月	土	常温
P-283	7月	土	常温
P-284	8月	土	常温
P-285	9月	土	常温
P-286	10月	土	常温
P-287	11月	土	常温
P-288	12月	土	常温
P-289	1月	土	常温
P-290	2月	土	常温
P-291	3月	土	常温
P-292	4月	土	常温
P-293	5月	土	常温
P-294	6月	土	常温
P-295	7月	土	常温
P-296	8月		

SPD～D^{***} (19M5～17M25) 東西ライン北壁土層

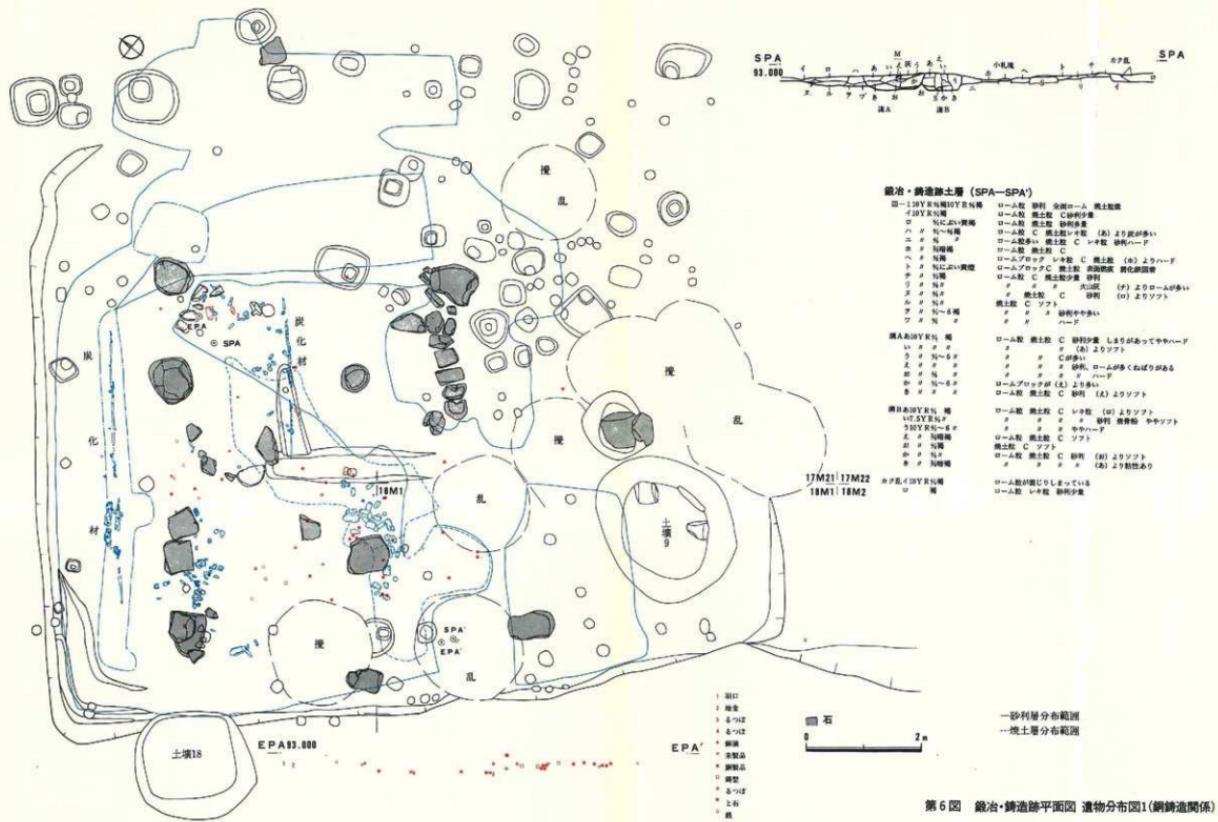
ヨイ シュル C微塵 飛土粒 微粒 火山灰 ややソフト
33% 33% A B C D E

SPE-E' (18L7+2~17L22) 東西ライン北壁土層

大土立イリヨリル	群生	塊土粒	ローム粒	火山灰多量
ハ	另に、いよいよ	モサ	モサ	シ少量、火山灰
二	又焉	C微量	ローム	ややハード
ホ	又焉	颗粒	中等2コ	ローム ややハード
ヘ	又焉	モサ	ローム粒	火山灰少
ト	又焉	モサ	モサ	基礎強度ソフト
チ	モサ	C	モサ	(ヘ) よりハード



第5図 調査区遺構配置図



第6図 錫冶・鋳造跡平面図 遺物分布図1(銅鋳造関係)

灰・薄緑色等の溶解物が付着し、発泡・ひび割れが見られる。底面は刷毛目状の整形痕が残る。底部中央 2.5×3 cmの部分は表面が溶け、発泡が顯著である。3はやや小振りで底部中央が平になるようである。胎土に砂粒を含む。発泡その他熱変の痕等は見られない。図示していない他の4片の内1点には熱変等が見られないが他の3片は発泡等が見られる。4は鉄型と推される。外径10.5cm程と推される円形で上部へ細く窄む。接地面の巾は2cmで平滑に整えられている。内面平滑で、接地面の1.5cm程上部から内反し肉厚となる。外面に溝状の抉りが3条程ある。胎土は粉っぽいが夾雜物は見られない。他に小石や纖維などの夾雜物の多い熱で赤変した粘土塊がある。一部に面取りが見られ、炉壁の一部かとも推したが、鉄型とも思われる。7は $57 \times 27.5 \times 12$ mmの銅地金である。97.3gを計る。形状は字義通りのナマコ形を呈し、上面及び一側面に5~9ミリ巾の面が不規則に残り、整形時の痕跡かと推される。一部亀裂を生じている。8は銅釘で未使用品である。9は八双金物である。薄板が弯曲して凸面状をなす。七子地に菊の折枝を配する。10、11は鉢である。13、

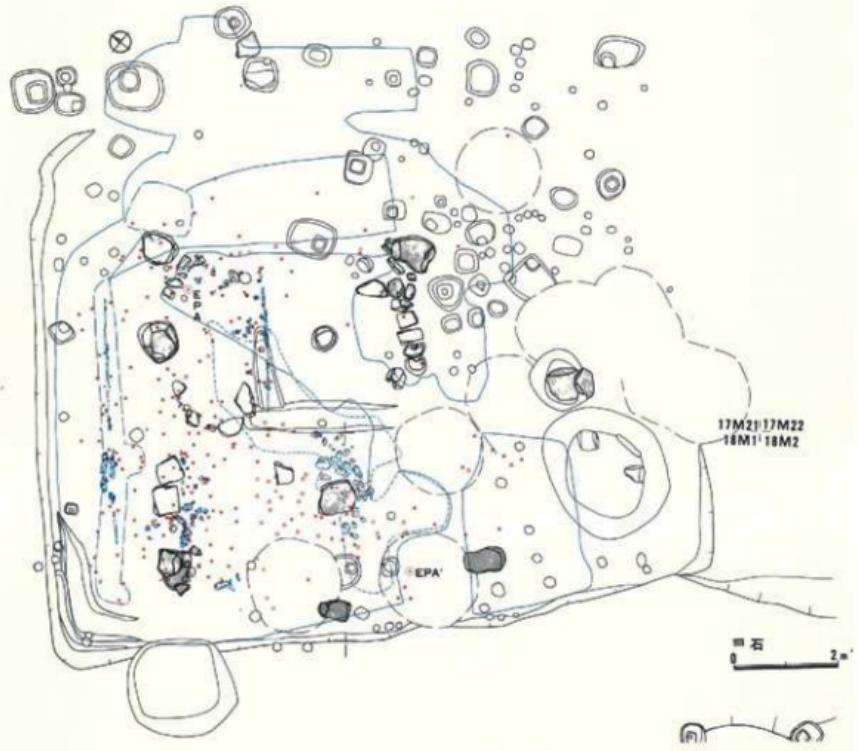
14、17は同種の止め金具類であろう。前二者は輪を二つ連結した形であるが後者はS字に曲げ密着させた形である。図示できなかったが、同種の紐金具(ぐみ)が出土している。12、15、16は八双鉢である。12は八重菊笠鉢で1本止めである。16は放射(菊花)状の笠に座金を一枚挟んで鉢止めするが先端が二本になっており、押し開いて止める。15は16の上部が欠失したものである。18~23は鉢(銅釘)である。19は一本のもの他は二本に開くものである。笠と組み合せて用いられるものであろう。銅滴・滓とした物には球状の固着物で一部空洞化した物もある。未製品は溶融、固着した物で面取り、紋様等の跡が残る失敗例かと推される物である。なお6は瀬戸・美濃の皿をつぼに転用した物である。他に2点程あるが、いずれも過去の調査時に他地区で出土したものである。

鉄製品：本地区出土の鉄製品類を第10図と表1に示した。釘と小札の出土量が特に多い。10図8の小札は良好な遺存状態である。20は刀身と柄の境に締金具が残り、山刀、鉈の類と思われる。釘の一部に未使用品かと推される物もあるが、共通の特徴とすることはできない。

表1 錫冶・鉄造跡出土遺物集計表(錫冶・鉄造関連遺物、銅・鉄製品他)

種別	数量	点数	重量(g)	備考
錫冶	るつぼ	(7)		7片6個体
羽口	(2)			1個体
鉄型?	(1)			3片同1個体
銅地金	1		97.3	
銅滴・滓	7		32.2	
銅未製品	8		87.2	(失敗例?)
錫冶剝片			2.1	
砥石	2			
	計	(29)	218.8	
銅製品	八双鉢	3	5.4	
	八双金物	1	5.1	
	鉢	9	20.7	
	茶葉	1	2.9	
	銀金具	7	6.4	
	釘(鉗)	8	3.4	
	その他	8	37.6	紐金具他
	計	(37)	81.5	

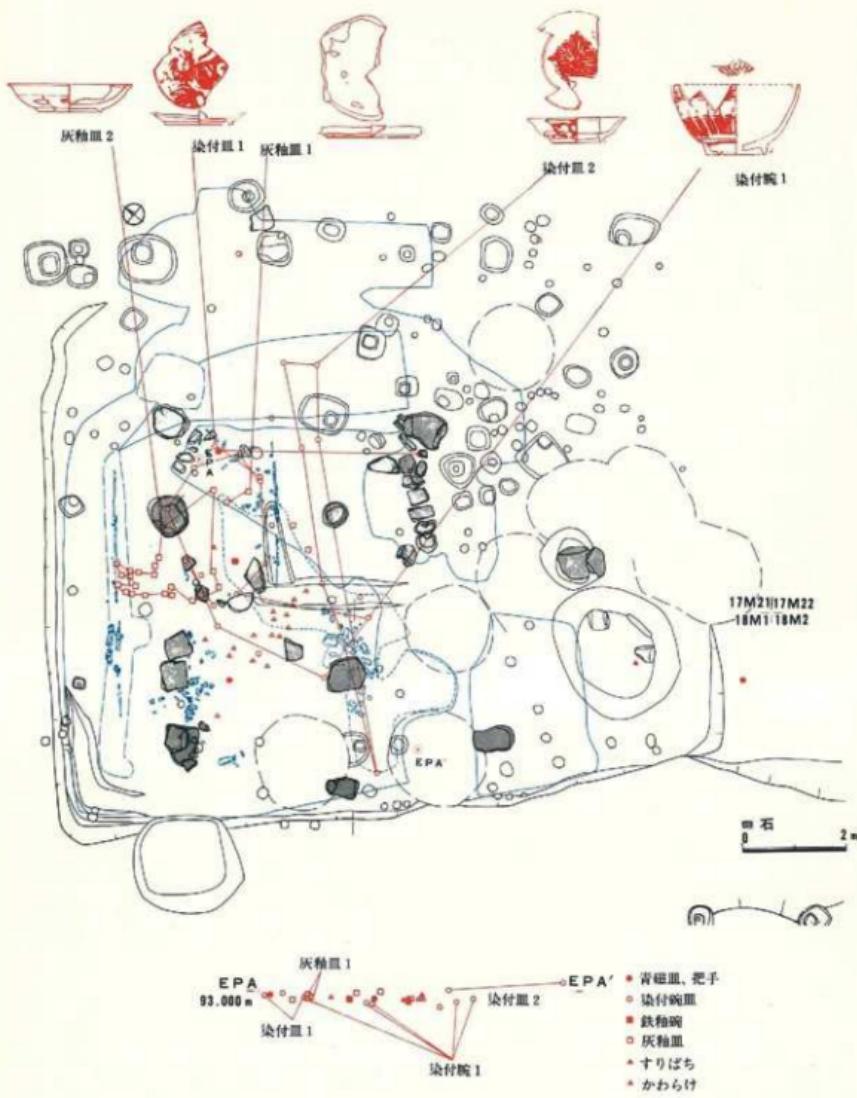
種別	数量	点数	重量(g)	備考
鐵製品	錫	(27)	801.8	
建業用具	釘	(317)	836.3	
	鉢	1	4.0	
	小計	(317)	840.3	
武器武具	小札	(149)	810.2	
	刀子	(1)	20.0	
	小刀	(12)	335.3	
	鉤	(3)	35.4	
	小計	(164)	1,200.9	
農具?	鋤	(1)	50.8	
	締金具	4	15.0	
	小計	(5)	65.8	
不明	2		106.1	
	計	515	3,014.9	
土製品	陶器	1		
その他	3			鉢型?(赤度)
不明	3			
	計	7		



EPA
 83,000 n

EPA' (1)刀
 (2)鉢
 (3)鍔
 (4)鍔
 (5)鍔
 (6)鍔
 (7)鍔
 (8)鍔
 (9)鍔
 (10)鍔
 (11)鍔
 (12)鍔
 (13)鍔
 (14)鍔
 (15)鍔
 (16)鍔
 (17)鍔
 (18)鍔
 (19)鍔
 (20)鍔
 (21)鍔
 (22)鍔
 (23)鍔
 (24)鍔
 (25)鍔
 (26)鍔
 (27)鍔
 (28)鍔
 (29)鍔
 (30)鍔
 (31)鍔
 (32)鍔
 (33)鍔
 (34)鍔
 (35)鍔
 (36)鍔
 (37)鍔
 (38)鍔
 (39)鍔
 (40)鍔
 (41)鍔
 (42)鍔
 (43)鍔
 (44)鍔
 (45)鍔
 (46)鍔
 (47)鍔
 (48)鍔
 (49)鍔
 (50)鍔
 (51)鍔
 (52)鍔
 (53)鍔
 (54)鍔
 (55)鍔
 (56)鍔
 (57)鍔
 (58)鍔
 (59)鍔
 (60)鍔
 (61)鍔
 (62)鍔
 (63)鍔
 (64)鍔
 (65)鍔
 (66)鍔
 (67)鍔
 (68)鍔
 (69)鍔
 (70)鍔
 (71)鍔
 (72)鍔
 (73)鍔
 (74)鍔
 (75)鍔
 (76)鍔
 (77)鍔
 (78)鍔
 (79)鍔
 (80)鍔
 (81)鍔
 (82)鍔
 (83)鍔
 (84)鍔
 (85)鍔
 (86)鍔
 (87)鍔
 (88)鍔
 (89)鍔
 (90)鍔
 (91)鍔
 (92)鍔
 (93)鍔
 (94)鍔
 (95)鍔
 (96)鍔
 (97)鍔
 (98)鍔
 (99)鍔
 (100)鍔
 (101)鍔
 (102)鍔
 (103)鍔
 (104)鍔
 (105)鍔
 (106)鍔
 (107)鍔
 (108)鍔
 (109)鍔
 (110)鍔
 (111)鍔
 (112)鍔
 (113)鍔
 (114)鍔
 (115)鍔
 (116)鍔
 (117)鍔
 (118)鍔
 (119)鍔
 (120)鍔
 (121)鍔
 (122)鍔
 (123)鍔
 (124)鍔
 (125)鍔
 (126)鍔
 (127)鍔
 (128)鍔
 (129)鍔
 (130)鍔
 (131)鍔
 (132)鍔
 (133)鍔
 (134)鍔
 (135)鍔
 (136)鍔
 (137)鍔
 (138)鍔
 (139)鍔
 (140)鍔
 (141)鍔
 (142)鍔
 (143)鍔
 (144)鍔
 (145)鍔
 (146)鍔
 (147)鍔
 (148)鍔
 (149)鍔
 (150)鍔
 (151)鍔
 (152)鍔
 (153)鍔
 (154)鍔
 (155)鍔
 (156)鍔
 (157)鍔
 (158)鍔
 (159)鍔
 (160)鍔
 (161)鍔
 (162)鍔
 (163)鍔
 (164)鍔
 (165)鍔
 (166)鍔
 (167)鍔
 (168)鍔
 (169)鍔
 (170)鍔
 (171)鍔
 (172)鍔
 (173)鍔
 (174)鍔
 (175)鍔
 (176)鍔
 (177)鍔
 (178)鍔
 (179)鍔
 (180)鍔
 (181)鍔
 (182)鍔
 (183)鍔
 (184)鍔
 (185)鍔
 (186)鍔
 (187)鍔
 (188)鍔
 (189)鍔
 (190)鍔
 (191)鍔
 (192)鍔
 (193)鍔
 (194)鍔
 (195)鍔
 (196)鍔
 (197)鍔
 (198)鍔
 (199)鍔
 (200)鍔
 (201)鍔
 (202)鍔
 (203)鍔
 (204)鍔
 (205)鍔
 (206)鍔
 (207)鍔
 (208)鍔
 (209)鍔
 (210)鍔
 (211)鍔
 (212)鍔
 (213)鍔
 (214)鍔
 (215)鍔
 (216)鍔
 (217)鍔
 (218)鍔
 (219)鍔
 (220)鍔
 (221)鍔
 (222)鍔
 (223)鍔
 (224)鍔
 (225)鍔
 (226)鍔
 (227)鍔
 (228)鍔
 (229)鍔
 (230)鍔
 (231)鍔
 (232)鍔
 (233)鍔
 (234)鍔
 (235)鍔
 (236)鍔
 (237)鍔
 (238)鍔
 (239)鍔
 (240)鍔
 (241)鍔
 (242)鍔
 (243)鍔
 (244)鍔
 (245)鍔
 (246)鍔
 (247)鍔
 (248)鍔
 (249)鍔
 (250)鍔
 (251)鍔
 (252)鍔
 (253)鍔
 (254)鍔
 (255)鍔
 (256)鍔
 (257)鍔
 (258)鍔
 (259)鍔
 (260)鍔
 (261)鍔
 (262)鍔
 (263)鍔
 (264)鍔
 (265)鍔
 (266)鍔
 (267)鍔
 (268)鍔
 (269)鍔
 (270)鍔
 (271)鍔
 (272)鍔
 (273)鍔
 (274)鍔
 (275)鍔
 (276)鍔
 (277)鍔
 (278)鍔
 (279)鍔
 (280)鍔
 (281)鍔
 (282)鍔
 (283)鍔
 (284)鍔
 (285)鍔
 (286)鍔
 (287)鍔
 (288)鍔
 (289)鍔
 (290)鍔
 (291)鍔
 (292)鍔
 (293)鍔
 (294)鍔
 (295)鍔
 (296)鍔
 (297)鍔
 (298)鍔
 (299)鍔
 (300)鍔
 (301)鍔
 (302)鍔
 (303)鍔
 (304)鍔
 (305)鍔
 (306)鍔
 (307)鍔
 (308)鍔
 (309)鍔
 (310)鍔
 (311)鍔
 (312)鍔
 (313)鍔
 (314)鍔
 (315)鍔
 (316)鍔
 (317)鍔
 (318)鍔
 (319)鍔
 (320)鍔
 (321)鍔
 (322)鍔
 (323)鍔
 (324)鍔
 (325)鍔
 (326)鍔
 (327)鍔
 (328)鍔
 (329)鍔
 (330)鍔
 (331)鍔
 (332)鍔
 (333)鍔
 (334)鍔
 (335)鍔
 (336)鍔
 (337)鍔
 (338)鍔
 (339)鍔
 (340)鍔
 (341)鍔
 (342)鍔
 (343)鍔
 (344)鍔
 (345)鍔
 (346)鍔
 (347)鍔
 (348)鍔
 (349)鍔
 (350)鍔
 (351)鍔
 (352)鍔
 (353)鍔
 (354)鍔
 (355)鍔
 (356)鍔
 (357)鍔
 (358)鍔
 (359)鍔
 (360)鍔
 (361)鍔
 (362)鍔
 (363)鍔
 (364)鍔
 (365)鍔
 (366)鍔
 (367)鍔
 (368)鍔
 (369)鍔
 (370)鍔
 (371)鍔
 (372)鍔
 (373)鍔
 (374)鍔
 (375)鍔
 (376)鍔
 (377)鍔
 (378)鍔
 (379)鍔
 (380)鍔
 (381)鍔
 (382)鍔
 (383)鍔
 (384)鍔
 (385)鍔
 (386)鍔
 (387)鍔
 (388)鍔
 (389)鍔
 (390)鍔
 (391)鍔
 (392)鍔
 (393)鍔
 (394)鍔
 (395)鍔
 (396)鍔
 (397)鍔
 (398)鍔
 (399)鍔
 (400)鍔
 (401)鍔
 (402)鍔
 (403)鍔
 (404)鍔
 (405)鍔
 (406)鍔
 (407)鍔
 (408)鍔
 (409)鍔
 (410)鍔
 (411)鍔
 (412)鍔
 (413)鍔
 (414)鍔
 (415)鍔
 (416)鍔
 (417)鍔
 (418)鍔
 (419)鍔
 (420)鍔
 (421)鍔
 (422)鍔
 (423)鍔
 (424)鍔
 (425)鍔
 (426)鍔
 (427)鍔
 (428)鍔
 (429)鍔
 (430)鍔
 (431)鍔
 (432)鍔
 (433)鍔
 (434)鍔
 (435)鍔
 (436)鍔
 (437)鍔
 (438)鍔
 (439)鍔
 (440)鍔
 (441)鍔
 (442)鍔
 (443)鍔
 (444)鍔
 (445)鍔
 (446)鍔
 (447)鍔
 (448)鍔
 (449)鍔
 (450)鍔
 (451)鍔
 (452)鍔
 (453)鍔
 (454)鍔
 (455)鍔
 (456)鍔
 (457)鍔
 (458)鍔
 (459)鍔
 (460)鍔
 (461)鍔
 (462)鍔
 (463)鍔
 (464)鍔
 (465)鍔
 (466)鍔
 (467)鍔
 (468)鍔
 (469)鍔
 (470)鍔
 (471)鍔
 (472)鍔
 (473)鍔
 (474)鍔
 (475)鍔
 (476)鍔
 (477)鍔
 (478)鍔
 (479)鍔
 (480)鍔
 (481)鍔
 (482)鍔
 (483)鍔
 (484)鍔
 (485)鍔
 (486)鍔
 (487)鍔
 (488)鍔
 (489)鍔
 (490)鍔
 (491)鍔
 (492)鍔
 (493)鍔
 (494)鍔
 (495)鍔
 (496)鍔
 (497)鍔
 (498)鍔
 (499)鍔
 (500)鍔
 (501)鍔
 (502)鍔
 (503)鍔
 (504)鍔
 (505)鍔
 (506)鍔
 (507)鍔
 (508)鍔
 (509)鍔
 (510)鍔
 (511)鍔
 (512)鍔
 (513)鍔
 (514)鍔
 (515)鍔
 (516)鍔
 (517)鍔
 (518)鍔
 (519)鍔
 (520)鍔
 (521)鍔
 (522)鍔
 (523)鍔
 (524)鍔
 (525)鍔
 (526)鍔
 (527)鍔
 (528)鍔
 (529)鍔
 (530)鍔
 (531)鍔
 (532)鍔
 (533)鍔
 (534)鍔
 (535)鍔
 (536)鍔
 (537)鍔
 (538)鍔
 (539)鍔
 (540)鍔
 (541)鍔
 (542)鍔
 (543)鍔
 (544)鍔
 (545)鍔
 (546)鍔
 (547)鍔
 (548)鍔
 (549)鍔
 (550)鍔
 (551)鍔
 (552)鍔
 (553)鍔
 (554)鍔
 (555)鍔
 (556)鍔
 (557)鍔
 (558)鍔
 (559)鍔
 (560)鍔
 (561)鍔
 (562)鍔
 (563)鍔
 (564)鍔
 (565)鍔
 (566)鍔
 (567)鍔
 (568)鍔
 (569)鍔
 (570)鍔
 (571)鍔
 (572)鍔
 (573)鍔
 (574)鍔
 (575)鍔
 (576)鍔
 (577)鍔
 (578)鍔
 (579)鍔
 (580)鍔
 (581)鍔
 (582)鍔
 (583)鍔
 (584)鍔
 (585)鍔
 (586)鍔
 (587)鍔
 (588)鍔
 (589)鍔
 (590)鍔
 (591)鍔
 (592)鍔
 (593)鍔
 (594)鍔
 (595)鍔
 (596)鍔
 (597)鍔
 (598)鍔
 (599)鍔
 (600)鍔
 (601)鍔
 (602)鍔
 (603)鍔
 (604)鍔
 (605)鍔
 (606)鍔
 (607)鍔
 (608)鍔
 (609)鍔
 (610)鍔
 (611)鍔
 (612)鍔
 (613)鍔
 (614)鍔
 (615)鍔
 (616)鍔
 (617)鍔
 (618)鍔
 (619)鍔
 (620)鍔
 (621)鍔
 (622)鍔
 (623)鍔
 (624)鍔
 (625)鍔
 (626)鍔
 (627)鍔
 (628)鍔
 (629)鍔
 (630)鍔
 (631)鍔
 (632)鍔
 (633)鍔
 (634)鍔
 (635)鍔
 (636)鍔
 (637)鍔
 (638)鍔
 (639)鍔
 (640)鍔
 (641)鍔
 (642)鍔
 (643)鍔
 (644)鍔
 (645)鍔
 (646)鍔
 (647)鍔
 (648)鍔
 (649)鍔
 (650)鍔
 (651)鍔
 (652)鍔
 (653)鍔
 (654)鍔
 (655)鍔
 (656)鍔
 (657)鍔
 (658)鍔
 (659)鍔
 (660)鍔
 (661)鍔
 (662)鍔
 (663)鍔
 (664)鍔
 (665)鍔
 (666)鍔
 (667)鍔
 (668)鍔
 (669)鍔
 (670)鍔
 (671)鍔
 (672)鍔
 (673)鍔
 (674)鍔
 (675)鍔
 (676)鍔
 (677)鍔
 (678)鍔
 (679)鍔
 (680)鍔
 (681)鍔
 (682)鍔
 (683)鍔
 (684)鍔
 (685)鍔
 (686)鍔
 (687)鍔
 (688)鍔
 (689)鍔
 (690)鍔
 (691)鍔
 (692)鍔
 (693)鍔
 (694)鍔
 (695)鍔
 (696)鍔
 (697)鍔
 (698)鍔
 (699)鍔
 (700)鍔
 (701)鍔
 (702)鍔
 (703)鍔
 (704)鍔
 (705)鍔
 (706)鍔
 (707)鍔
 (708)鍔
 (709)鍔
 (710)鍔
 (711)鍔
 (712)鍔
 (713)鍔
 (714)鍔
 (715)鍔
 (716)鍔
 (717)鍔
 (718)鍔
 (719)鍔
 (720)鍔
 (721)鍔
 (722)鍔
 (723)鍔
 (724)鍔
 (725)鍔
 (726)鍔
 (727)鍔
 (728)鍔
 (729)鍔
 (730)鍔
 (731)鍔
 (732)鍔
 (733)鍔
 (734)鍔
 (735)鍔
 (736)鍔
 (737)鍔
 (738)鍔
 (739)鍔
 (740)鍔
 (741)鍔
 (742)鍔
 (743)鍔
 (744)鍔
 (745)鍔
 (746)鍔
 (747)鍔
 (748)鍔
 (749)鍔
 (750)鍔
 (751)鍔
 (752)鍔
 (753)鍔
 (754)鍔
 (755)鍔
 (756)鍔
 (757)鍔
 (758)鍔
 (759)鍔
 (760)鍔
 (761)鍔
 (762)鍔
 (763)鍔
 (764)鍔
 (765)鍔
 (766)鍔
 (767)鍔
 (768)鍔
 (769)鍔
 (770)鍔
 (771)鍔
 (772)鍔
 (773)鍔
 (774)鍔
 (775)鍔
 (776)鍔
 (777)鍔
 (778)鍔
 (779)鍔
 (780)鍔
 (781)鍔
 (782)鍔
 (783)鍔
 (784)鍔
 (785)鍔
 (786)鍔
 (787)鍔
 (788)鍔
 (789)鍔
 (790)鍔
 (791)鍔
 (792)鍔
 (793)鍔
 (794)鍔
 (795)鍔
 (796)鍔
 (797)鍔
 (798)鍔
 (799)鍔
 (800)鍔
 (801)鍔
 (802)鍔
 (803)鍔
 (804)鍔
 (805)鍔
 (806)鍔
 (807)鍔
 (808)鍔
 (809)鍔
 (810)鍔
 (811)鍔
 (812)鍔
 (813)鍔
 (814)鍔
 (815)鍔
 (816)鍔
 (817)鍔
 (818)鍔
 (819)鍔
 (820)鍔
 (821)鍔
 (822)鍔
 (823)鍔
 (824)鍔
 (825)鍔
 (826)鍔
 (827)鍔
 (828)鍔
 (829)鍔
 (830)鍔
 (831)鍔
 (832)鍔
 (833)鍔
 (834)鍔
 (835)鍔
 (836)鍔
 (837)鍔
 (838)鍔
 (839)鍔
 (840)鍔
 (841)鍔
 (842)鍔
 (843)鍔
 (844)鍔
 (845)鍔
 (846)鍔
 (847)鍔
 (848)鍔
 (849)鍔
 (850)鍔
 (851)鍔
 (852)鍔
 (853)鍔
 (854)鍔
 (855)鍔
 (856)鍔
 (857)鍔
 (858)鍔
 (859)鍔
 (860)鍔
 (861)鍔
 (862)鍔
 (863)鍔
 (864)鍔
 (865)鍔
 (866)鍔
 (867)鍔
 (868)鍔
 (869)鍔
 (870)鍔
 (871)鍔
 (872)鍔
 (873)鍔
 (874)鍔
 (875)鍔
 (876)鍔
 (877)鍔
 (878)鍔
 (879)鍔
 (880)鍔
 (881)鍔
 (882)鍔
 (883)鍔
 (884)鍔
 (885)鍔
 (886)鍔
 (887)鍔
 (888)鍔
 (889)鍔
 (890)鍔
 (891)鍔
 (892)鍔
 (893)鍔
 (894)鍔
 (895)鍔
 (896)鍔
 (897)鍔
 (898)鍔
 (899)鍔
 (900)鍔
 (901)鍔
 (902)鍔
 (903)鍔
 (904)鍔
 (905)鍔
 (906)鍔
 (907)鍔
 (908)鍔
 (909)鍔
 (910)鍔
 (911)鍔
 (912)鍔
 (913)鍔
 (914)鍔
 (915)鍔
 (916)鍔
 (917)鍔
 (918)鍔
 (919)鍔
 (920)鍔
 (921)鍔
 (922)鍔
 (923)鍔
 (924)鍔
 (925)鍔
 (926)鍔
 (927)鍔
 (928)鍔
 (929)鍔
 (930)鍔
 (931)鍔
 (932)鍔
 (933)鍔
 (934)鍔
 (935)鍔
 (936)鍔
 (937)鍔
 (938)鍔
 (939)鍔
 (940)鍔
 (941)鍔
 (942)鍔
 (943)鍔
 (944)鍔
 (945)鍔
 (946)鍔
 (947)鍔
 (948)鍔
 (949)鍔
 (950)鍔
 (951)鍔
 (952)鍔
 (953)鍔
 (954)鍔
 (955)鍔
 (956)鍔
 (957)鍔
 (958)鍔
 (959)鍔
 (960)鍔
 (961)鍔
 (962)鍔
 (963)鍔
 (964)鍔
 (965)鍔
 (966)鍔
 (967)鍔
 (968)鍔
 (969)鍔
 (970)鍔
 (971)鍔
 (972)鍔
 (973)鍔
 (974)鍔
 (975)鍔
 (976)鍔
 (977)鍔
 (978)鍔
 (979)鍔
 (980)鍔
 (981)鍔
 (982)鍔
 (983)鍔
 (984)鍔
 (985)鍔
 (986)鍔
 (987)鍔
 (988)鍔
 (989)鍔
 (990)鍔
 (991)鍔
 (992)鍔
 (993)鍔
 (994)鍔
 (995)鍔
 (996)鍔
 (997)鍔
 (998)鍔
 (999)鍔
 (1000)鍔

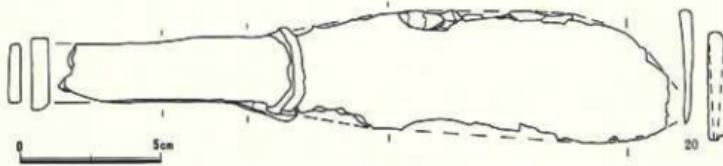
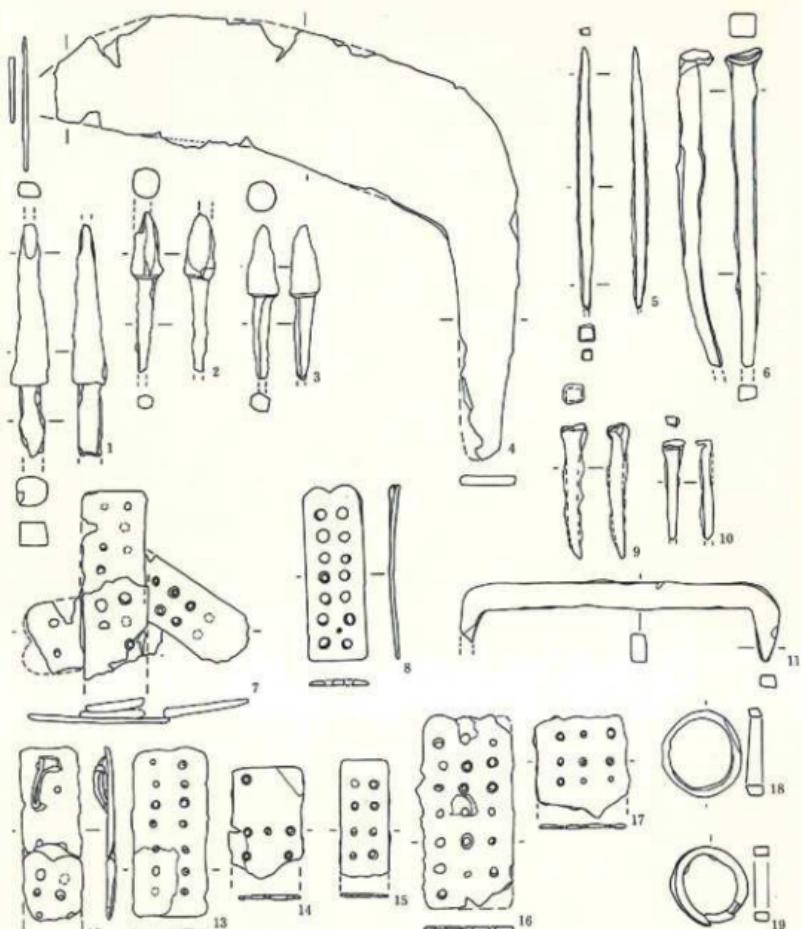
第7図 鋳冶・鑄造跡平面図 遺物分布図2(鉄製品)



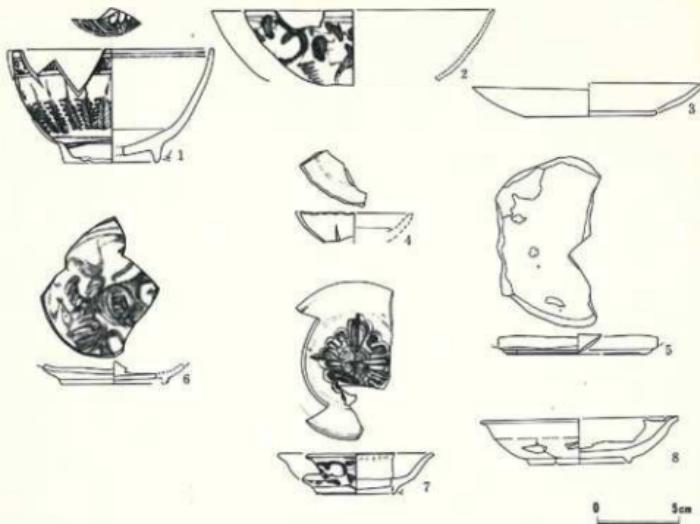
第8図 錫冶・鑄造跡平面図 遺物分布図3(陶磁器)



第9図 銅冶・鋳造跡出土遺物他



第10図 銅冶・鋳造跡出土遺物

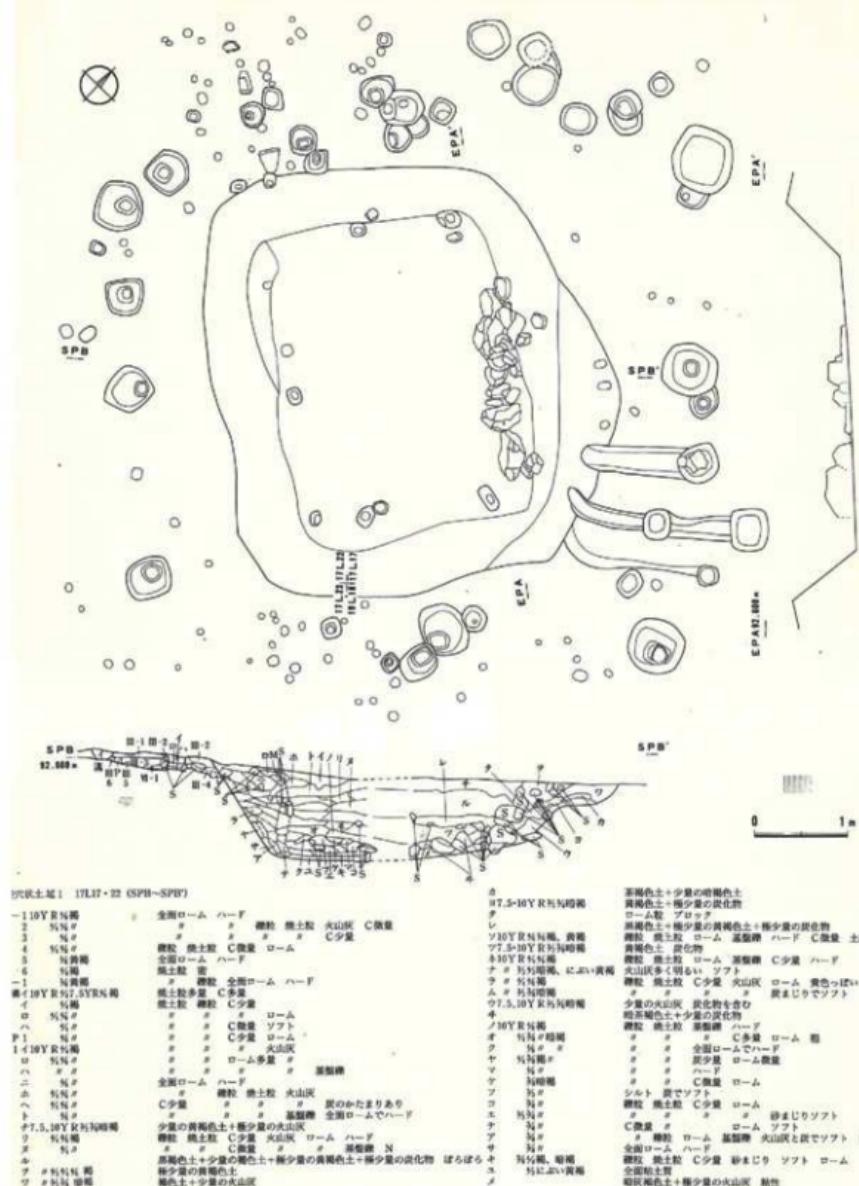


第11図 錫冶・鋳造跡出土遺物

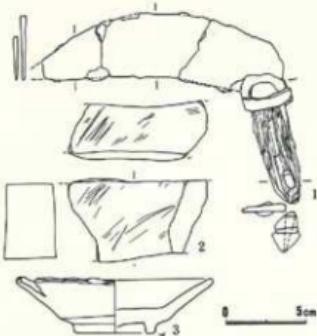
表2 錫冶・鋳造跡出土陶磁器集計表

(断片数)

器種 種別	舶載			國產						合計	
	中國			瀬戸・美濃		土器	越前	美濃	小計		
	青磁	白磁	染付	汎釉	釉陶						
碗	6		28	34	3				11	45	
皿	7	5	56	68	34		20		54	122	
盤	3			3						3	
酒鉢								9	1	10	
羹匙鉢								29		29	
その他	1			1	1				1	2	
総計	17	5	84	106	37	9	20	38	1	105	
										211	



第12図 竪穴状土壤1平面図



第13図 壺穴状土壙・井戸出土遺物

陶磁器：本地区出土陶磁器を第11図と別表に示した。第11図は表のうち表面が熱変しているものを主とした。これらは本地区の焼土が形成された時期を知る手掛りとなる資料と推されるものである。2、6、7は染付である。1、2の蓮子碗は勝山館内では第二段階として来た一群である。5、6は瀬戸・美濃灰釉である。5は径8.8cmの輪高台が付く。外面高台以下無釉、内面も既存部分は殆んど無釉で一部見込みに釉が流れこんでいる。体部上半のみ内外施釉する皿であろう。6は見込みに菊の印文花を有する端反り皿である。大黒I期であろう。③はかわらけ（土器師）である。宇野隆夫氏のご報示によれば京都系の16世紀初め頃の物かと推されることがある。この外に図示していないが熱変の陶磁器に青磁綾花皿、染付列点文状の蓮子碗1、染付十字花文皿2、瀬戸・美濃灰釉端反皿2、同鉄釉（天目茶）碗（大黒I）1、角形口唇の越前播磨1などの破片がある。図1、4の染付の熱変は明らかでない。他に染付幕筒底魚文皿、などの熱変を受けていないものがある。

羽口の形態は從前勝山館で出土していた物に比し、大きさ径共に小型で一端が漏斗状に広いなど著しく異っている。從来の羽口の先端には鉄分

（鋤）の付着した物もあり、鉄の加工等に使用したものとすることができる。本例については、類例にあたることができなかったが後述の銅の铸造に関連すると推される遺物の存在から、これに用

いられた羽口と考えられる。銅地金・銅津付着のるつぼ、鉄型、銅滴・萍、鉄込みの失敗と思われる未製品と37点の銅製品の出土は本地区での銅の铸造加工業の存在を示すものであろう。又銅製品が全て甲冑金物であることは更に留意される。

他方鉄製品が小札と釘を中心に大量に出土していることも留意される。少量の銀造剝片以外に鉄の加工に連する資料は得られていないが、小札の多いことは銅製品が甲冑金物だけであることと関係することかも知れない。

(5) 壺穴状土壙・井戸跡

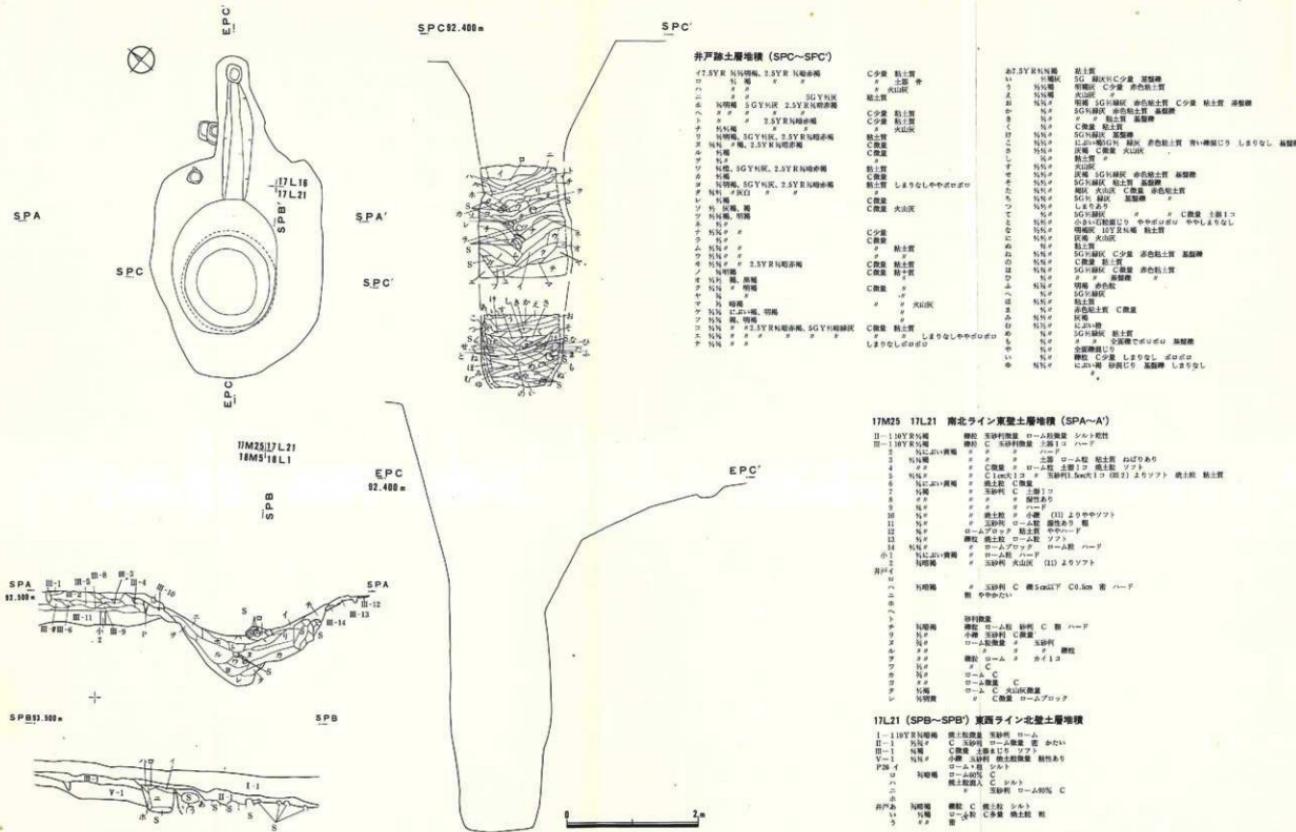
1 : 17L17・22区に位置する。4.6×3.6cm程の隅丸方形で深さ1~0.7mである。短軸北東側が浅く張り出す。3条の溝状の凹みがこれに重なるが、付随するものか、他の地割溝かは不明である。覆土は粘土質で堅く礫を多く含む。北東壁際に30×50cmの大きな礫が集中していた。施設の一部とも推したが明らかでない。粘土質の床面に柱穴があるが、西隅には検出できなかった。又集石の下位にP227に対応する柱穴も考えられたが石をはずして調査はしていない。覆土中から第14図2、3の他、鉄鍋12片、釘17、小札1、陶錠2点が出土した。3の青磁綾花皿は前述の铸造跡出土の熱変した破片と接合する。柱穴が一部欠けているが上屋の架けられる遺構と推される。性格は不明である。

2 : M25区に位置する。南東壁は井戸の掘り上げに伴い消失したものと推される。1よりは浅い。ほぼ同一のものであろう。

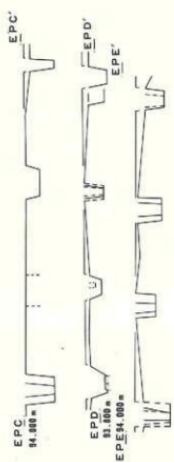
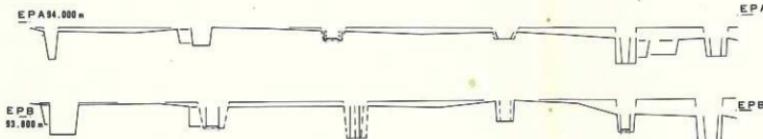
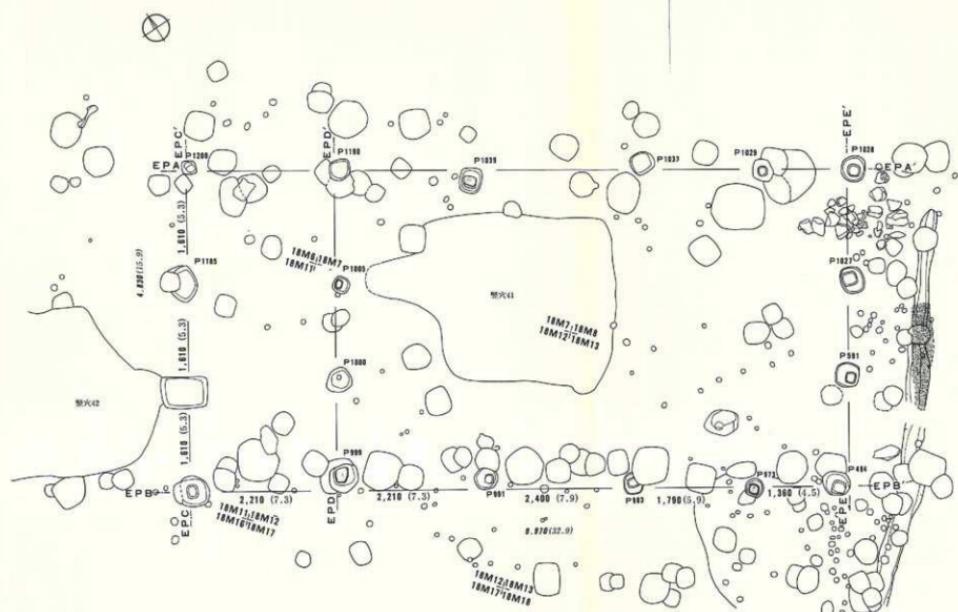
井戸跡 : 17M25区に位置する。上部掘り込み部は3.3×2.8mの長円形でも長軸北東側に巾50~60cm長さ1.5m程の溝状の張り出しが付く。地表下0.9~1.6mまでは漏斗状、以下途中は崩落の為か幾分抉れながら直真に塘底に至る素掘りの井戸である。上部径1.4×1.3m底径1.0×0.9m、地表からの深さ6.4m余。覆土最上部には大量の礫が堆積する。第14図1の錠は上部覆土中の出土。陶磁器等若干出土しているが、未整理である。壺穴状土壙2の埋没後に掘られた井戸である。

(6) 捩立柱建物跡

第1号建物跡（第15図）: 18M7・8、12・13区周辺に位置する。3×5間で梁行の柱間は5.5尺等間、桁行は7.3尺等間の3間と、南側11尺を6.5尺と4.5尺の2間とする建物と想定した。柱穴内に一

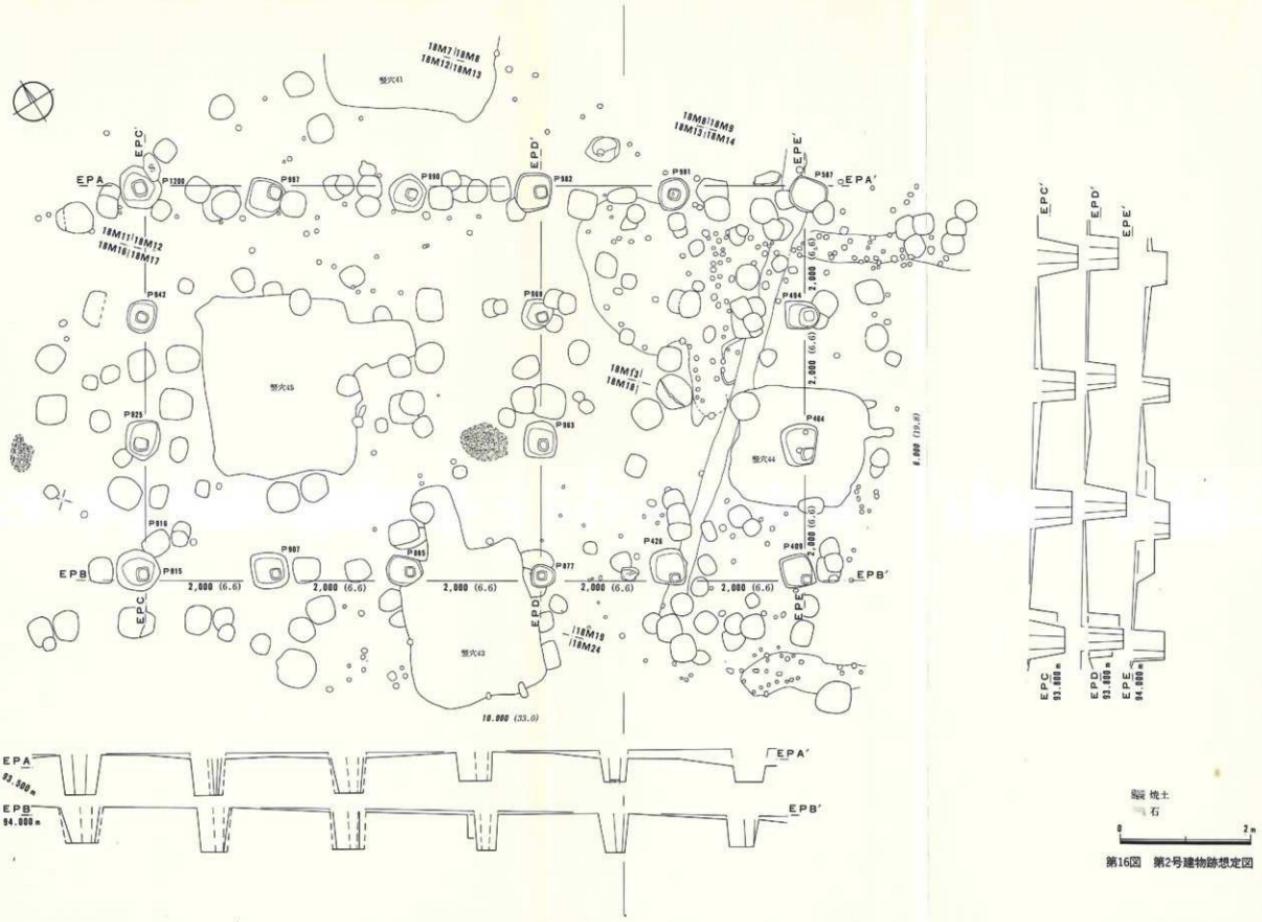


第14図 井戸跡平面図

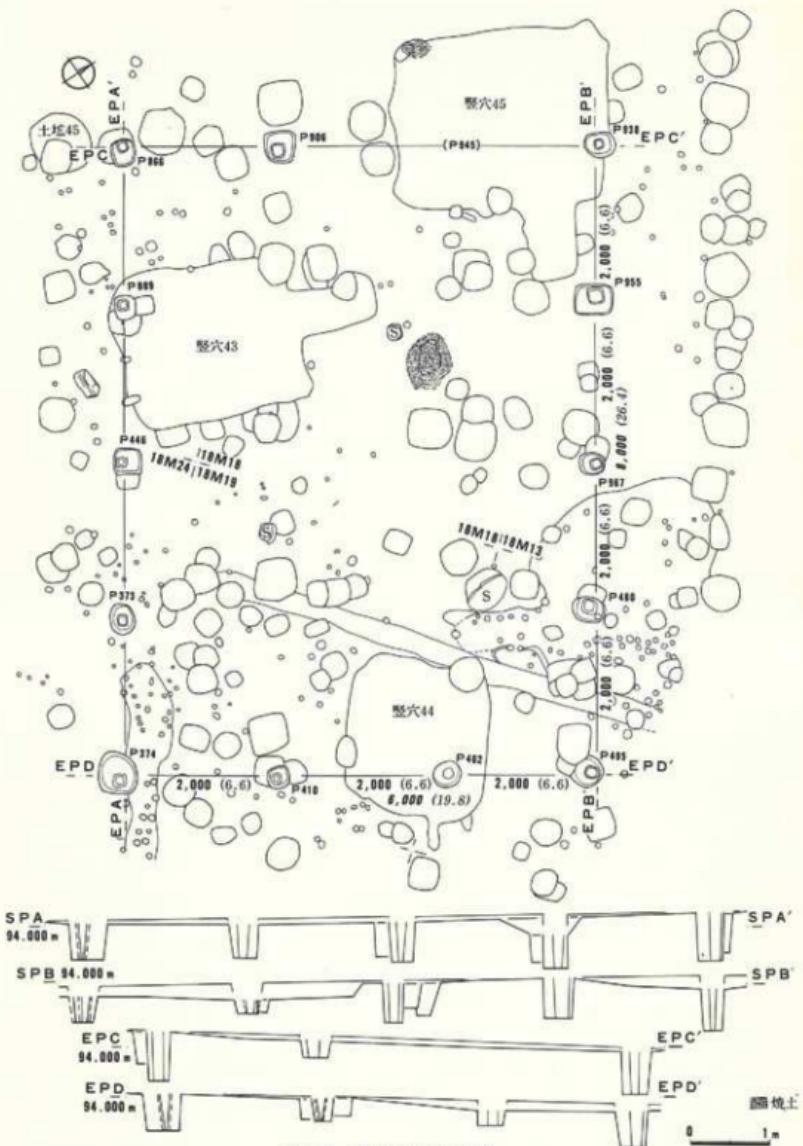


櫻燒土 面工

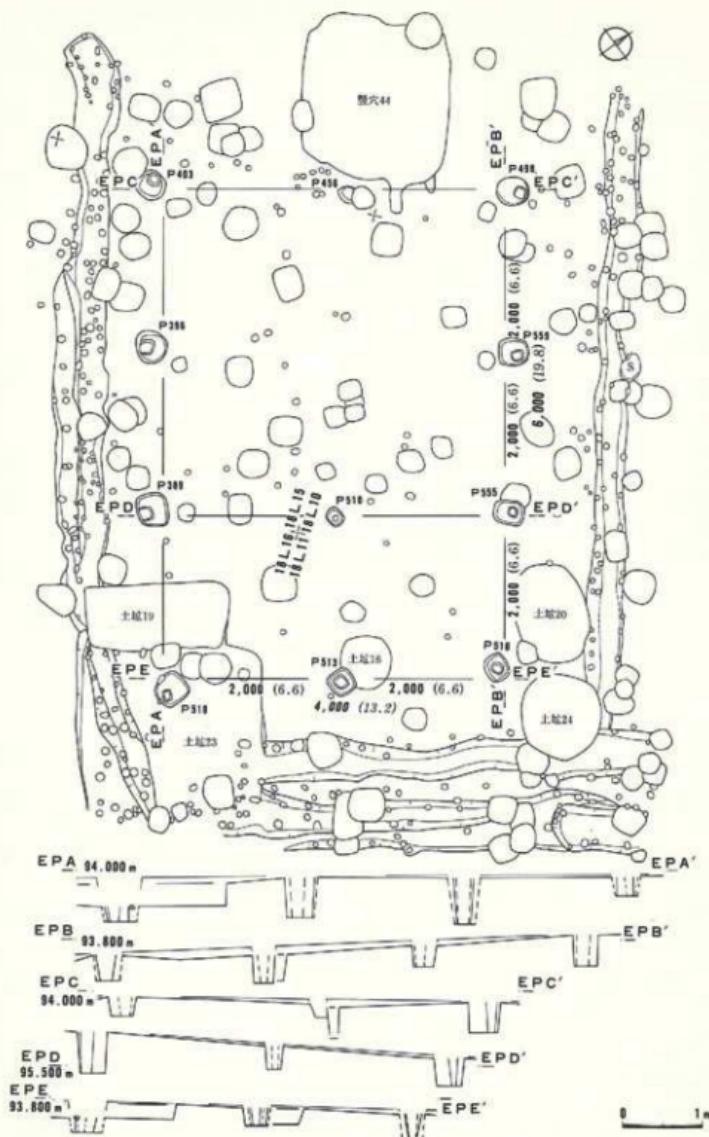
第15図 第1号建物跡想定図



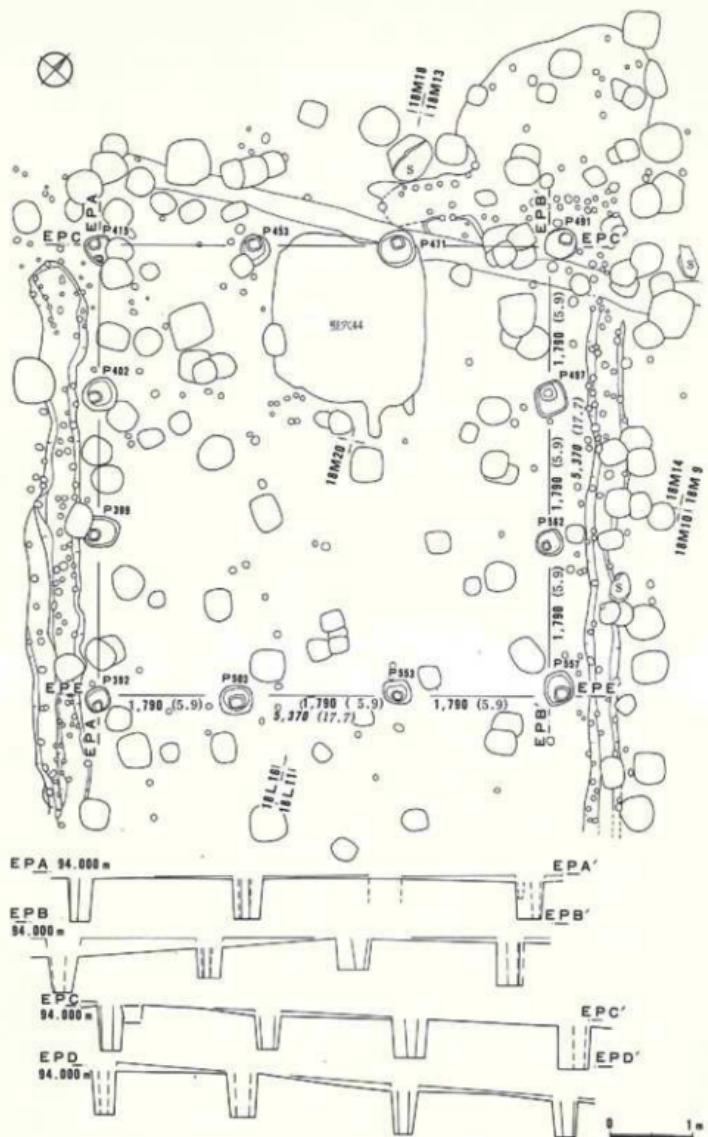
第16図 第2号建物跡想定図



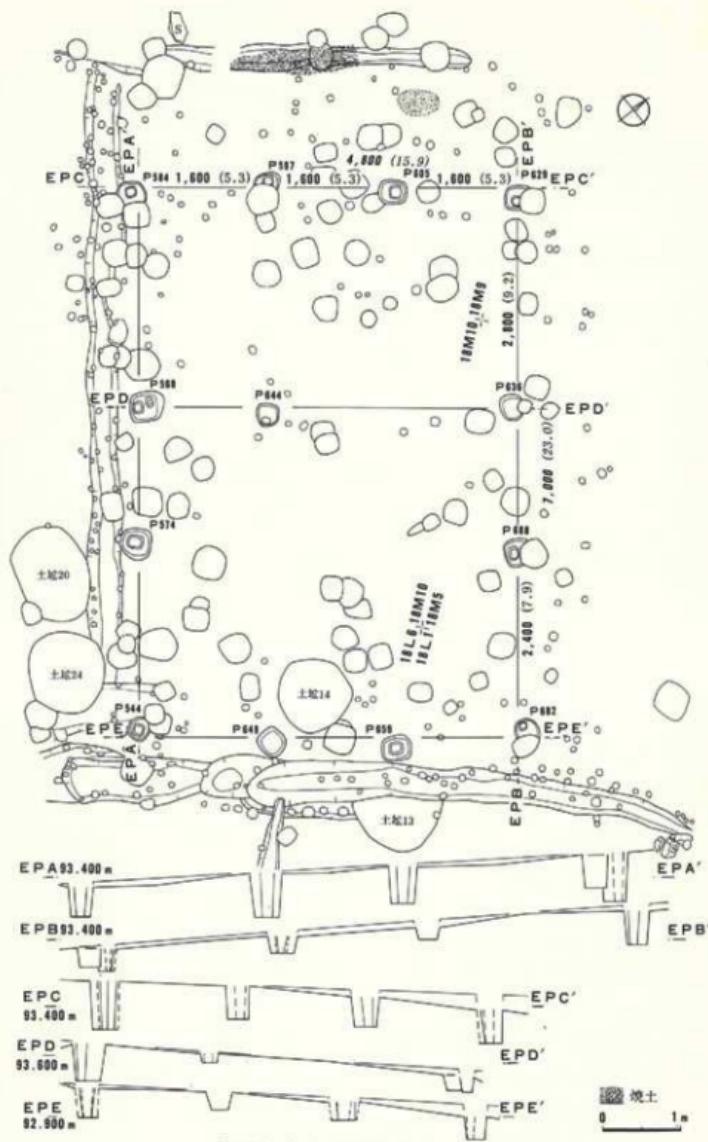
第17図 第3号建物跡想定図



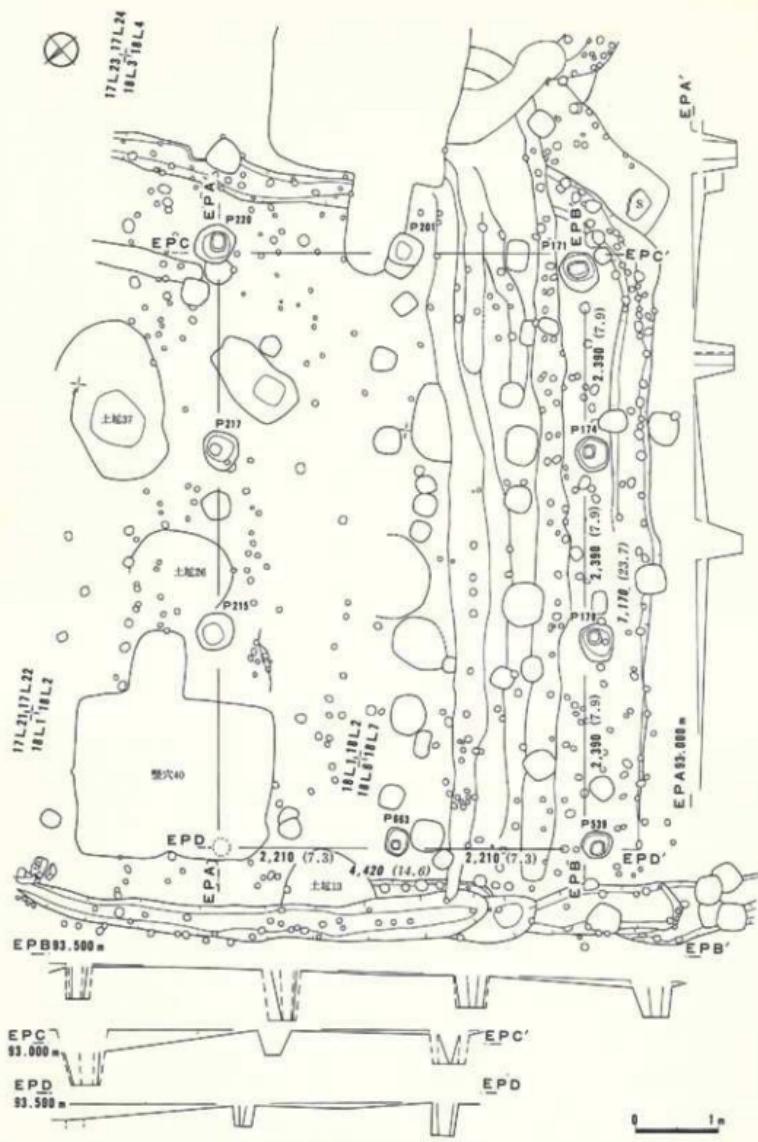
第18図 第4号建物跡想定図



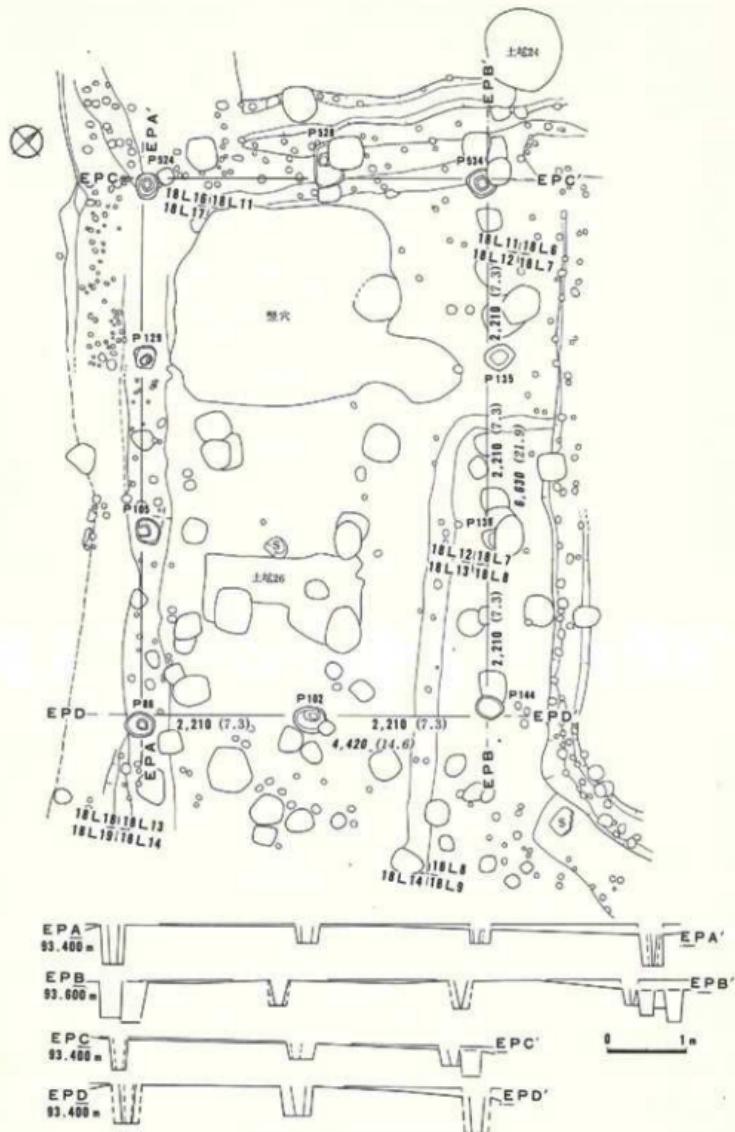
第19図 第5号建物跡想定図



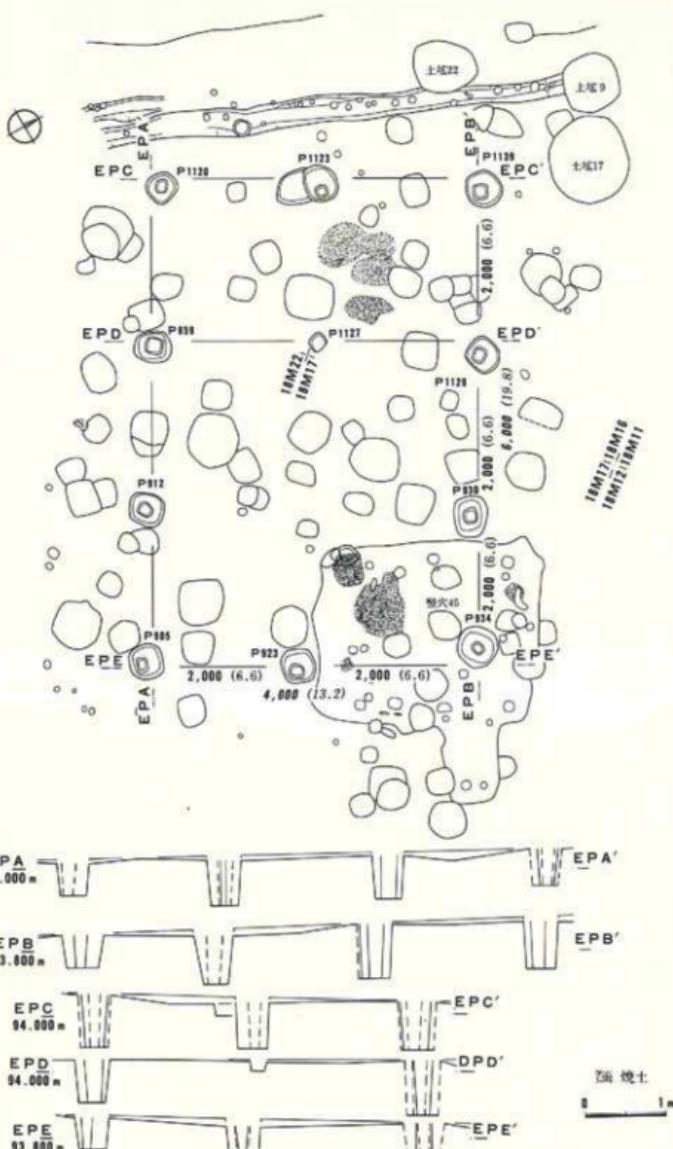
第20図 第6号建物跡想定図



第21図 第7号建物跡想定図



第22図 第8号建物跡想定図



第23図 第9号建物跡想定図

部石が支えとして用いられている。一番北寄り一間は仕切られるようである。南端柱列の50~60cmには地割界と推される溝がみられるが、他の三面は明らかでない。第2号建物跡より古い。

第2号建物跡(第16図)：18M17・18区周辺に位置する。第1号建物跡の西とその西柱列に本建物跡の東柱列が重複する。3×5間、柱間は6.6尺等間で3×3間と3×2間の二室からなる建物と想定した。地割界を示す溝跡は明らかでない。

第3号建物跡(第17図)：18M18区周辺、第2号建物跡の西に位置し、殆どが重複する。3×4間で柱間6.6尺の等間の建物跡と想定した。北柱列の1柱穴は堅穴45と重複している。間仕切り、地割界は明らかでない。

第4号建物跡(第18図)：18M10区周辺に位置する。2×3間、6.6尺等間で、2×2間と2×1間の二室からなる建物跡と想定した。東西と南側は柱筋にはば平行する溝跡が敷地の地割界を示すと推される。北の溝跡は柱列と軸線が異っている。

第5号建物跡(第19図)：18M19、20区周辺、第4号建物跡と殆ど重複して北に位置する。3×3間、5.9尺等間の建物跡と想定した。東西と南の地割界溝は第4号建物跡と同じ溝跡かと推されるが、北側は不明である。

第6号建物跡(第20図)：18M10区周辺、第1号建物跡南、第4、5号建物跡東に位置する3×3間の建物跡を想定した。梁行は5.3尺等間であるが桁行は、9.2、5.9、7.9尺と不規則である。

第7号建物跡(第21図)：18L7区周辺、第6号建物跡の溝を挟んで北側に位置する。2×3間、梁行の柱間7.3尺、桁行7.9尺の建物と想定した。北隅の柱穴は堅穴40号との重複により消失している。本地区的溝はつくり替えが激しく明確ではないが、敷地地割を画する溝が認識するようである。

第8号建物跡(第22図)：18L22区周辺、第7号建物跡西、第4号建物跡の南に位置する。2×3間、梁行7.3尺等間、桁行7.3、7.9、7.3尺の柱間の建物跡を想定した。しかし南側は未調査であり、更に大きくなるかも知れない。東は、7号建物跡との間の、北は7号建物跡から続く溝跡が画すると推される。西は一部のみ調査した。破線で位置を示した溝跡が地割を画す溝跡かと推している。

第9号建物跡(第23図)：18M22区周辺に位置す

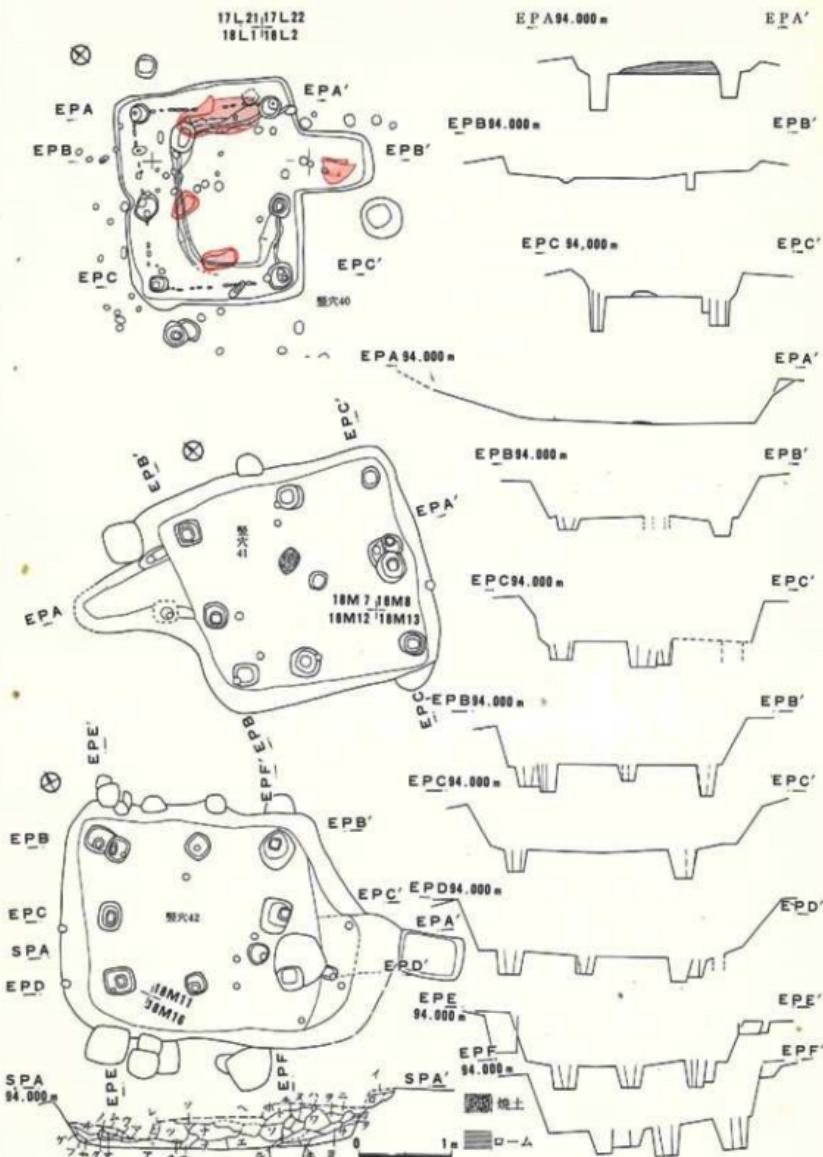
る2×3間、6.6尺等間の建物跡と想定した。

(7) 堅穴建物跡、土壙、溝

a 堅穴建物跡

本年度の調査で10基の堅穴建物跡を検出したがこのうち18L3・4区と18L12区に位置する2基は過年度(昭和55年度)に調査されたものである。一方が2mから2.8mと幾分大小の差がある方形で一方に出入口とされる緩く傾斜する張り出しが着く。この出入口はほぼ掘立柱建物跡の軸線に直行又は平行するが、その方向は一定していない。18M13、14区の不定形な落ち込みは小柱穴、柱穴等から、堅穴建物跡の可能性が考えられる。18M4区踏石状石積、土壙12の下位に堅穴建物跡が推されたが完掘していない。18L16区の方形の落ち込みも同様の可能性がある。40~43、45、46の床面で焼土、炭化物の堆積が見られた。掘立柱の建物跡と前後関係は、一部整理途中有るが、相互に切り合うようであり、一方だけを古くすることはできないと推している。40~46号堅穴から1~5点(4.2~91.8g)の釘が出土し、40、43、45号堅穴から鐵鋸削片が0.6~11.3g出土している。他に鍋、カスガイ、小札、小刀等が出土しているが、45号を除いて少量である。

第45号堅穴建物跡(第25図)：18M17区に位置する。28×2.2m、深さ55cm、長軸は南北方向。短軸に平行して東側へ1.1mの出入口が張り出して付く。柱穴はイーチの8個と推されるが、ハチなど更に検討しなければならないものもある。出入口張出しには基部と先端に2個1対づつの小柱穴がある。出入口の踏み板等を支えるものであろうか。この堅穴は火災により焼失したらしく内部に大量の炭化材等が堆積していた。細かな観察等ができるないが概要を記す。炭化材等は床面に密着するものは少ない。柱材は柱穴内には残っていない。これは火災の際床面より高い位置の部材等は焼失炭化したが、床に密着したものの、柱穴内等地下に埋まっていた部分は炭化せず、その後腐蝕消失したものと推される。柱穴口、トの柱材が炭化残存したが、少くともトは正方形ではなく、長方形の所謂半柱の形状である。トの柱材の外側に北へ厚さ2cm、巾10~15cmの炭化した板材が立って3~4枚出土した。イート、イーハなど四隅の柱列の外側に、ほとんどがほぼ柱列に平行して茅類が集まっていた。直立の板材は棟板を示すもの



第24図 第40、41、42号竪穴遺構平面図

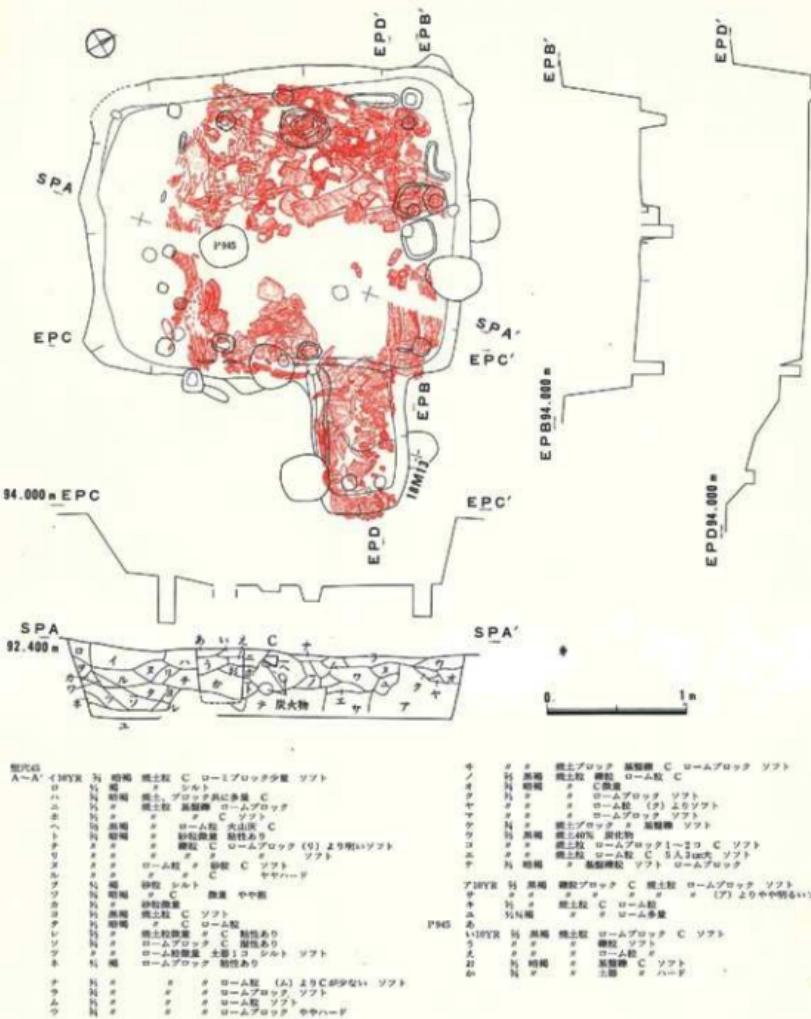
と推している。床面を精査すると柱穴の外側に巾2cm、長さ10cm余の浅い溝を検出できたがこれがこの板材の床面に残された痕跡と推するところである。茅類は壁の断熱・防風材又は屋根の葺代であろう。束ねた痕はまだ明らかでない。長軸南部、柱列イートの外側が他の面或いは他の堅穴に比し広くとられているが茅類以外の炭化材は少なく、四間に壁材が残る建物はこの柱列外側まで完結するかと推するものである。幾分まとめて小柱穴が分布するようであるが、或いは樋状の施設を支える一部でもあろうか。或いは当初の建物を南

側だけ縮小して建てかえた結果とも推されるが、なお検討しなければならない。覆土中から他の堅穴に比べ多量の鉄製品が出土している。銅42点113g、小札48点166gなどが目立つところであるが、更に出土位置等細かく検討したく思っている。美濃大窯I期の鉄輪碗(第27図5)も出土している。

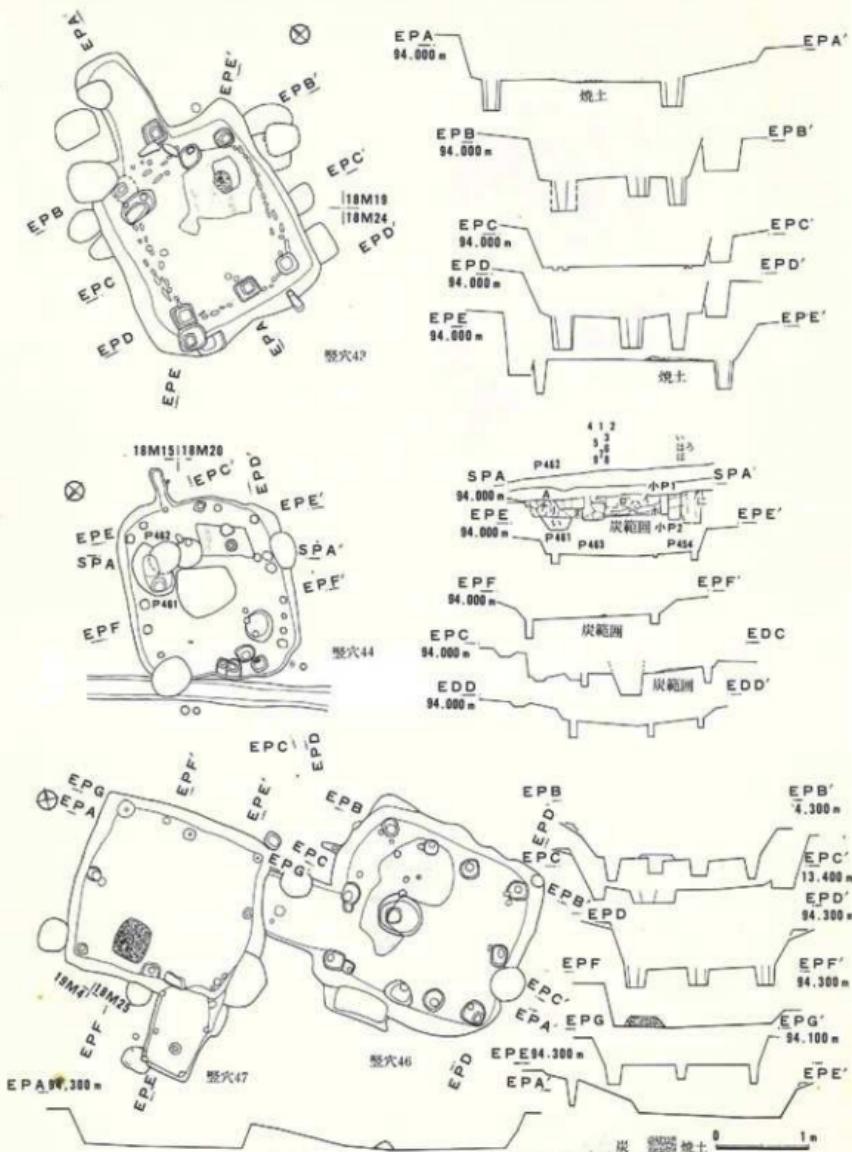
45号堅穴の炭化材中に堅体と推されるものがありその痕跡を床面に見たが、40、43、18L12過年度調査堅穴等にも同様の痕跡を検出し得た。ある程度推測の妥当性を示し得たかと思う。

18M11 堅穴42東西セクション南壁 (SPA-A')		土層堆積
イ	10YR 4/2褐色	硬粒 C. ややハード
ロ	10YR 4/2褐色	焼土粒 C.少量、ロームと少額のよりハード
メ	10YR 4/2褐色	ローム C
ホ	10YR 4/2褐色	ローム粒・C. ややソフト
ヘ	10YR 4/2褐色	焼土粒 ローム粒・C. 硬粒
ト	10YR 4/2褐色	ローム粒・C. 硬粒
チ	10YR 4/2褐色	ローム粒・C. ソフト
シ	10YR 4/2褐色	ロームブロック C 硬粒、熟土質
ス	10YR 4/2褐色	ローム粒 C (より)柔軟
ル	10YR 4/2褐色	C やや柔軟
ア	10YR 4/2褐色	C やや柔軟
タ	10YR 4/2褐色	ロームブロック 焼土粒 C
オ	10YR 4/2褐色	ロームブロック C
メ	10YR 4/2褐色~4/3褐色	ローム粒 C
タ	10YR 4/2褐色	ローム粒 C 烧土粒
レ	10YR 4/2褐色	ローム粒 C 烧土粒 ソフト
シ	10YR 4/2褐色	焼土粒 C やや多い
ア	10YR 4/2褐色	小粒 ローム粒 C
ナ	10YR 4/2褐色	全面ローム
テ	10YR 4/2褐色~4/3褐色	ロームブロック 焼土粒、C. ソフト
リ	10YR 4/2褐色	ロームブロック C やより粘質
ム	10YR 4/2褐色	焼粒、熟土粒 C ややハード
ウ	10YR 4/2褐色	ローム粒 C
キ	10YR 4/2褐色	ロームブロック 焼土粒 C. 火山灰散量
ノ	10YR 4/2褐色	焼土粒やや多い
オ	10YR 4/2褐色~4/3褐色	ローム粒 C
ク	10YR 4/2褐色	焼土粒多い
ナ	10YR 4/2褐色	C (より) ソフト
マ	10YR 4/2褐色	全面ローム
ケ	10YR 4/2褐色	ローム粒 C. ややソフト
ア	10YR 4/2褐色	ローム粒少量 C. ソフト
コ	10YR 4/2褐色	ローム C 粘質 ソフト
メ	10YR 4/2褐色	ロームブロック C 粘質
テ	10YR 4/2褐色~4/3褐色	ロームブロック C 粘質 ややハード
ア	10YR 4/2褐色	焼土粒 C 全面ローム
ナ	10YR 4/2褐色	全面ローム
キ	10YR 4/2褐色	熟土粒 C 粘質 (より)ハード

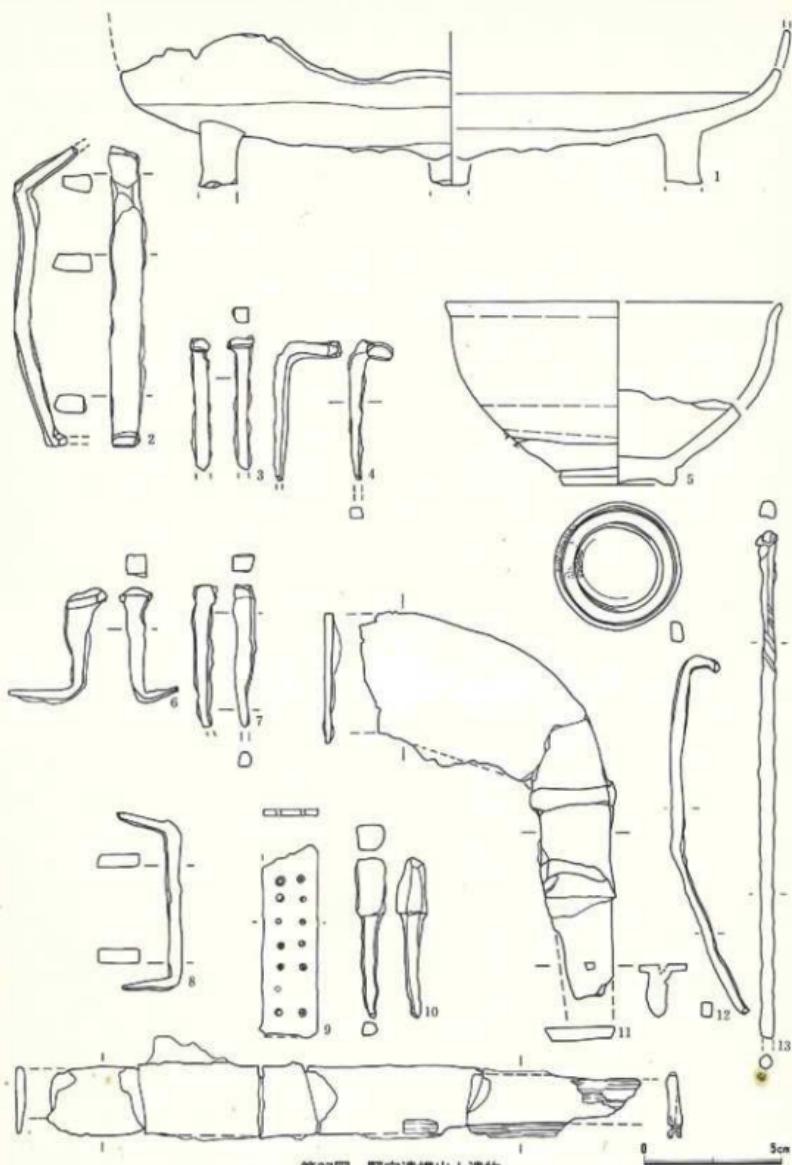
18M14 堅穴44南北セクション東壁 (SPA-A')		土層堆積
I-1	10YR 4/2褐色	硬粒
III-1	10YR 4/2褐色	焼土粒 ローム C 錫量
V-1	10YR 4/2褐色	硬粒
形イ	10YR 4/2褐色	焼粒
六	10YR 4/2褐色	焼粒
44	10YR 4/2褐色	焼粒
シ	10YR 4/2褐色	焼粒
ホ	10YR 4/2褐色	焼粒
ヘ	10YR 4/2褐色	焼粒
ト	10YR 4/2褐色	焼粒
チ	10YR 4/2褐色	焼粒
シ	10YR 4/2褐色	焼粒
ス	10YR 4/2褐色	焼粒
ル	10YR 4/2褐色	焼粒
ア	10YR 4/2褐色	焼粒
タ	10YR 4/2褐色	焼粒
オ	10YR 4/2褐色	焼粒
メ	10YR 4/2褐色	焼粒
メ	10YR 4/2褐色	焼粒
タ	10YR 4/2褐色	焼粒
レ	10YR 4/2褐色	焼粒
シ	10YR 4/2褐色	焼粒
ア	10YR 4/2褐色	焼粒
タ	10YR 4/2褐色	焼粒
オ	10YR 4/2褐色	焼粒
P-462	10YR 4/2褐色	焼粒焼土粒 C 少量
P-463	10YR 4/2褐色	ローム C 少量
2	10YR 4/2褐色	ローム C 少量
3	10YR 4/2褐色	ローム多量
4	10YR 4/2褐色	ローム少量
5	10YR 4/2褐色	ローム少量
6	10YR 4/2褐色	ローム C 少量
7	10YR 4/2褐色	焼粒
8	10YR 4/2褐色	C 錫量 全面ローム
9	10YR 4/2褐色	焼粒
P-461	10YR 4/2褐色	焼粒
P-454	10YR 4/2褐色	焼粒
シ	10YR 4/2褐色	焼粒
は	10YR 4/2褐色	焼粒
は	10YR 4/2褐色	焼粒
に	10YR 4/2褐色	焼粒
は	10YR 4/2褐色	焼粒
小粒穴1	10YR 4/2褐色	焼粒
小粒穴2	10YR 4/2褐色	焼粒



第25図 第45号竪穴造構平面図



第26図 第43、44、46、47号竪穴造構平面図



第27図 堅穴遺構出土遺物

b 土壌

55基の土壌が見つかっている。未整理の部分が多く全容を明らかにできない。径が90~135cmの円形が多く、深さは30~150cm程度と差異がある。

土壌7(第28図):17M22区に位置する。135×130cm、深さ105cm程度を測る。本遺跡で見られる土壌の一類型となるもの。III層下位に掘り込みがある。覆土中から釘3点・鍛造剣片1.8gなどが出土地である。

土壌9(同):18M1区に位置する。130×115cm、深さ80cm程度である。覆土中から1.9gの鍛造剣片が出土地である。鍛治・鑄造跡内に位置すると推され、その作業に関連する遺構とも考えられるが、一帯に分布する砂利層が覆土内に見られるなど今少し検討しなければならない。鍛造剣片もこの砂利層中の出土とも推される。

土壌13(第29図):18L1区に位置する。110×110cm、深さ20~30cm、鍛造剣片2.8g、釘1点などが出土地である。溝5より新しい。

土壌17(同):18M16区に位置する。土壌7と同種か。110×110cm深さ100cm程度である。同心円状の土の堆積を見る。

土壌18(第30図):18N5区に位置する。100×100cm、深さ25~45cm。3.8gの鍛造剣片が得られている。土壌9と同じく覆土中に鍛治・鑄造跡全体に分布する砂利層の一部がみられることから鍛造剣片もこの覆土中からの出土とも考えられる。

土壌20(同):18L11区に位置する。120×90cm、深さ40cm程度である。径20cm前後の礫が集積する。粘土の固い層が中段に厚く堆積する。鉄鍋・小札釘が出土地である。

土壌31(同):18M25区に位置する。120×110cm、深さ150cm程度である。中央部が外周に比べやや歓らかな土の堆積をしている。壙底20cm余りに曲物枠が据えられていた。この枠の下位から壙底には1~3cm大的砂利が7~8cm數きつめられていた。鍋の小片(1.6g)と釘7点が出土地である。

土壌42(同):18N15区に位置する。平坦面北西端を廻る柵列の外に位置している。鍛造剣片1.2gが出土地である。

土壌の一部について略述したが、土壌内から採取した土壌サンプルの洗浄、フローティング結果や他の遺物の出土状況、土層の堆積等未整理の状況にある。土壌19、24、30、38等からは鉄鍋の小

片(6.7~151g)が、土壌43の壙底からは内耳鉄鍋片(304.4g)が出土している。釘は土壌の4、8、10、14、19、22、23、24、38、39から1~4本(2.2~12.4g)出土している。完掘してはいないが、47、48からの各33、18本(77.6、18.0g)の出土が際立っている。小札は14、19、24から1、2点出土する。鍛造剣片は6、14、15、19、24、48から0.6~3.6g出土している。

土壙31の壙底に砂利が敷かれ、曲物枠が据えられていたことは、井戸としての使用が考えられそうである。他の類似の形態の物も併せ保水性、建物との位置関係など更に検討したい。

c 溝

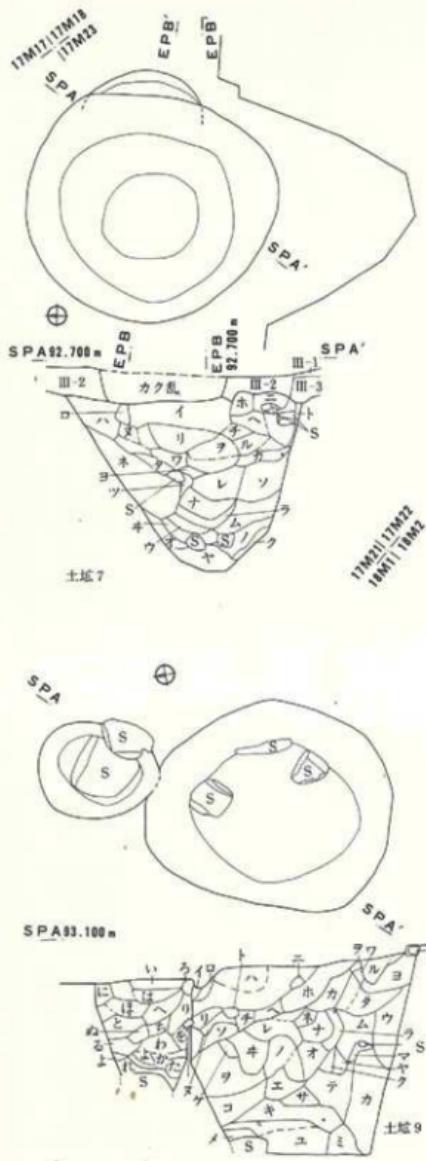
調査区北東部に18M6~18L1に至る群様の柱列が続く。この柱列に平行して北東側に段がつくられ段と柱列で前後の区画が強く区分されている。この柱列の南西の平坦面に建物敷地を区画する地割の溝が作られている。東西に長軸を持つ長方形が基本形であるが、作りかえや削平の為もあってか必ずしも四辺が描かないし建物の配置と一致するものも少ない。18M20区では東西8.8m南北6m約53m程の区画である。なお18M1区及び17M21区の土壙2から東へ溝跡が僅かに見つかっているが、これらの延長が18M19区の溝につながり、地割がつくられるかとも推している。溝の巾は35~50cm、深さは10~40cm程度で、溝の中には径7~10cm程の小柱穴が不規則に並んでいる。

(8) 柵列

台地西側の端部に巾30cm、深さ10~50cmの溝がつくられている。溝の中には径10cm前後の柱穴が5~20cm間隔で並んでいる。台地の端部を廻る柵列で前年度調査区で検出されたものに連続するものである。柵列の上に10cm前後の礫が集積しているところがある。前年度の調査区にも見られたが、館の時期の集石とする確証は得られていない。

(9) 遺物

出土遺物の概要を表として末尾に付すとともに主な遺物を31、32図に示した。31図は、土壙、柱穴覆土からの出土、32図は包含層からの出土遺物である。31図10、11は鉄製品で土壙23、31出土。刺突具の類か。13~15は土壙47出土。木箱等の存在が推される。21は鉄製の容器か。32図13は火打金、27は太刀柄頭、28は六器台。又23の金鏡は近代のものかも知れない。



第28図 土壌7、9平面図他

17M22土壤1 (A-A') 土層堆積

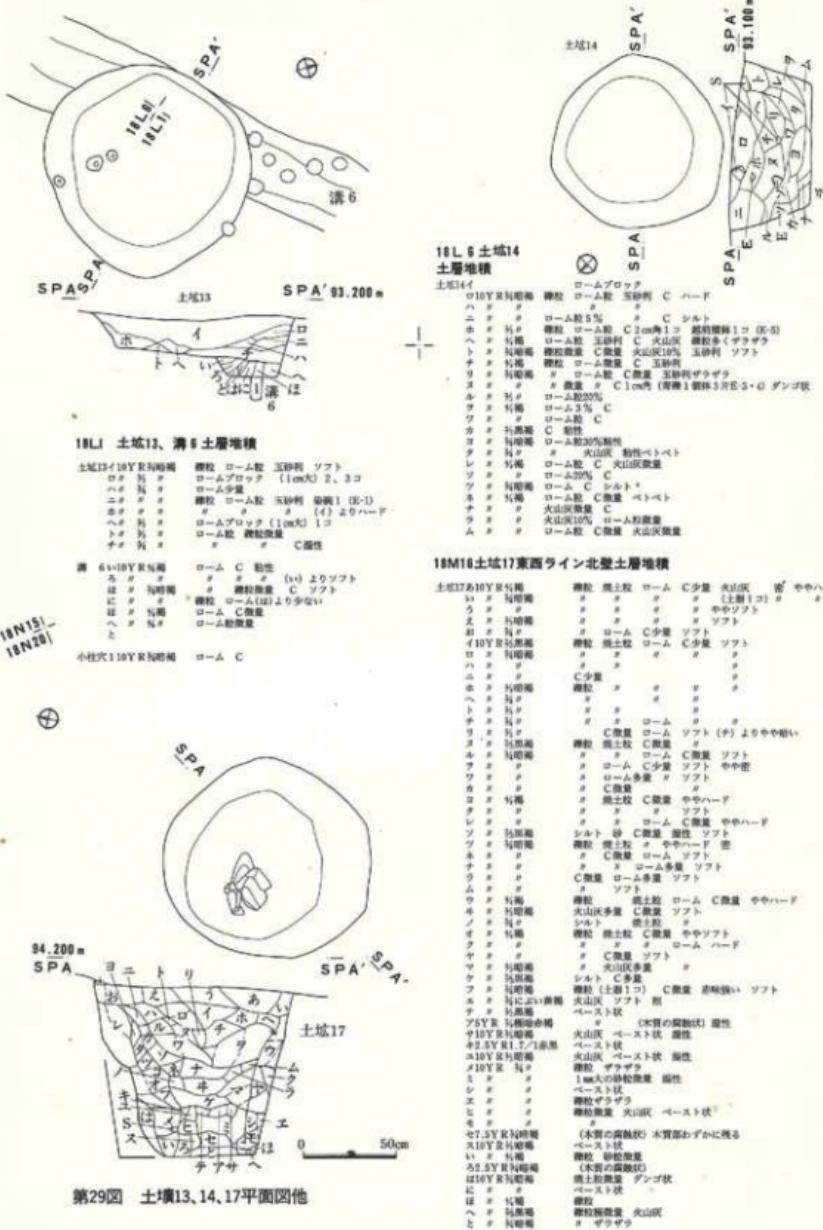
17M21 + 18M1 土 壤 9 P1323 (A-A') 土 層 堆 積

土加ノリトヨハム	御殿	武士族	C 少量	ハード
ロカ ノルヒキ	ミ	ミ	少	ソフト
ハクス 有間	ミ	ミ	C 少量	全開五砂利多量
ニクタ	ミ	ミ	C 開放	全開五砂利多量
ミツタ	ミ	ミ	C 開放	全開五砂利多量
ヘイタ	ミ	ミ	ミ	砂利少量
トヨタ	ミ	ミ	ミ	ロームブロック
チカタ	ミ	ミ	ミ	全開五砂利多量
リキタ	ミ	ミ	ミ	ローム基盤
ルカタ	ミ	ミ	ミ	ローム
ルダタ	ミ	ミ	ミ	全開五砂利多量
サカタ	ミ	ミ	ミ	ローム
ワカタ ノルヒキ	ミ	ミ	ミ	ソフト
カガタ 有間	ミ	ミ	C 少量	ローム基盤
タカタ 有間	ミ	ミ	ミ	ローム
タマタ 有間	ミ	ミ	ミ	ローム やホワード
レシタ 有間	ミ	ミ	ミ	ローム やホワード
ソジタ 有間-ヒタチ	ミ	ミ	C 少量	砂利少量
ツバタ 有間-ヒタチ	ミ	ミ	ミ	ローム やホワード
ナガタ 有間	ミ	ミ	ミ	ロームブロック (ア) やより中程度
タカタ 有間	ミ	ミ	ミ	ロームブロック 基盤型
ツバタ 有間-ヒタチ-黄面	ミ	ミ	C 少量	ロームブロック
ムリタ ノルヒキ	ミ	ミ	ミ	ローム 基盤型
ウツカタ 有間	ミ	ミ	C 少量	ローム 基盤型
ゾロタ	ミ	ミ	ミ	ローム やホワード
オタタ 有間-ヒタチ	ミ	ミ	ミ	ローム 基盤型
クリタ 有間	ミ	ミ	C 少量	ローム やホワード
サカタ 有間	ミ	ミ	C 少量	ローム ソフト
タカタ 有間-ヒタチ	ミ	ミ	ミ	ローム やホワード
タマタ 有間-ヒタチ	ミ	ミ	ミ	ローム 基盤型
レシタ 有間-ヒタチ	ミ	ミ	ミ	ローム 基盤型
ソジタ 有間-ヒタチ	ミ	ミ	ミ	ローム 基盤型
ツバタ 有間-ヒタチ	ミ	ミ	ミ	ローム 基盤型
ムリタ 有間	ミ	ミ	ミ	ローム 基盤型
ウツカタ 有間	ミ	ミ	ミ	ローム 基盤型
アリタ 有間	ミ	ミ	ミ	ローム ソフト
アリタ 有間-ヒタチ	ミ	ミ	ミ	ローム ソフト

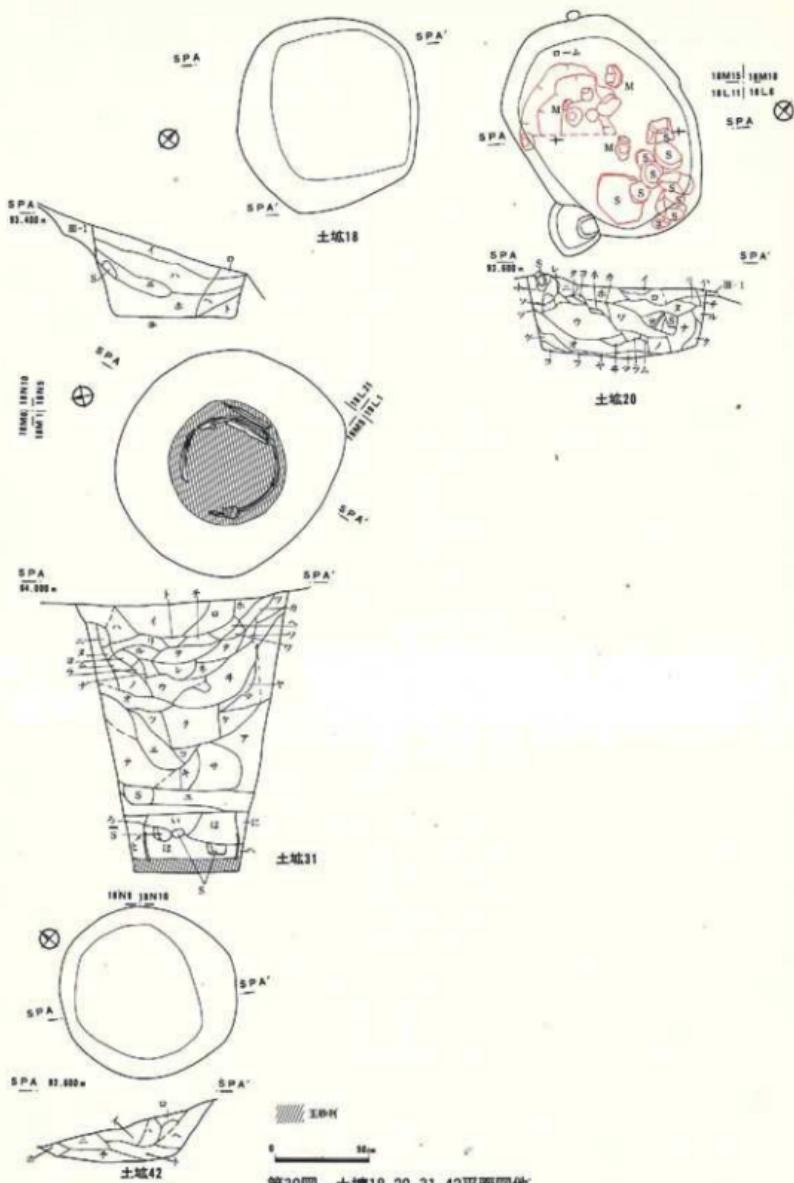
P1

種子	母	基盤	C 植物	性質	やソツ
L30% 10Y R 5% 開	開	砂土	C 少量	化物	
ぬき	ク	ク	ク	サハード	
わき	ク	ク	ク	ローム やシソフト	
にク	ク	ク	ク	火山灰 やシード	
道	ク	ク	ク	ク 背溝より やシソフト	
くわ	ク	ク	ク	ロームより やシード	
ヒク	ク	ク	ク	ロームより やシード	
ち	ク	ク	ク	ク	
10Y 10% 開	開	砂土	C 少量	化物 火山灰	ソフト組
ぬき	ク	ク	ク	ローム サハード	
わき	ク	ク	ク	火山灰 ソフト	
にク	ク	ク	ク	ク	
道	ク	ク	ク	ク	
くわ	ク	ク	ク	ク	
ヒク	ク	ク	ク	ク	
ち	ク	ク	ク	ク	

0 50cm



第29圖 土壠13、14、17平面圖他



第30図 土壌18、20、31、42平面図他

18NS土壤18土層地積

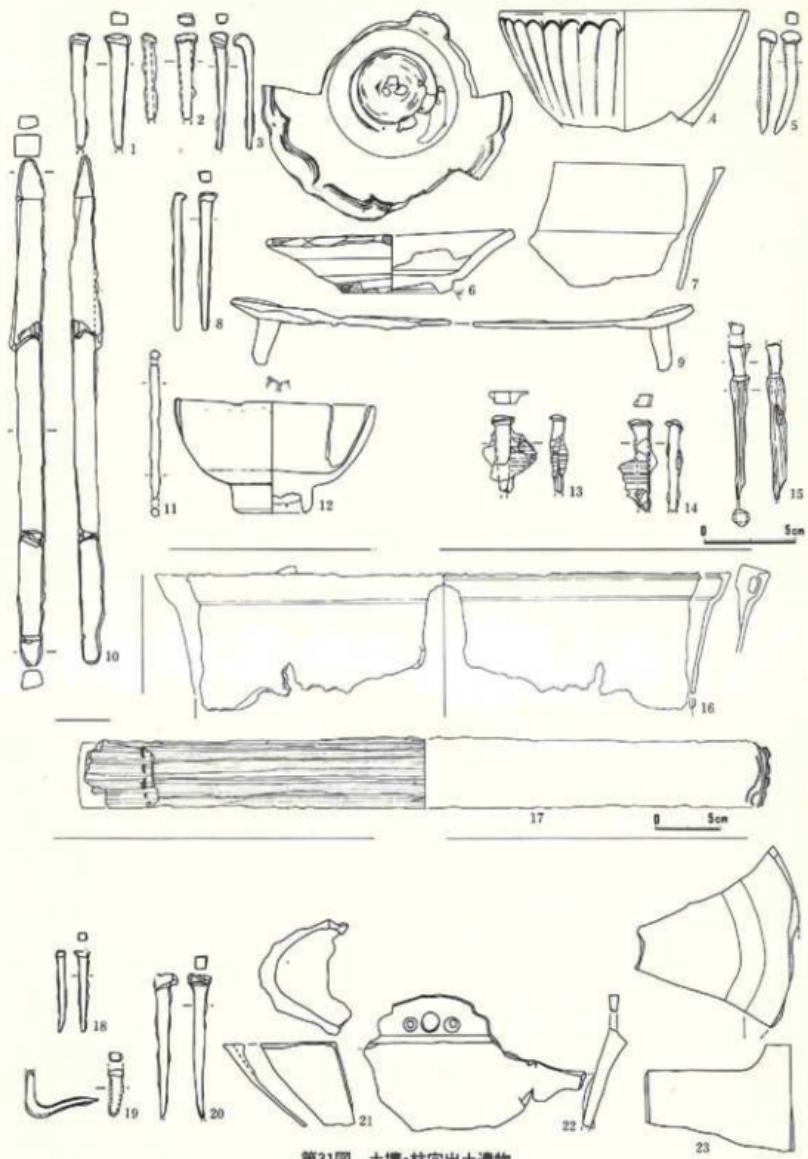
図-1 10Y R 5%~8% に亘る供給
土地18イ10Y R 5% 周

土壤20厘米做土层堆积

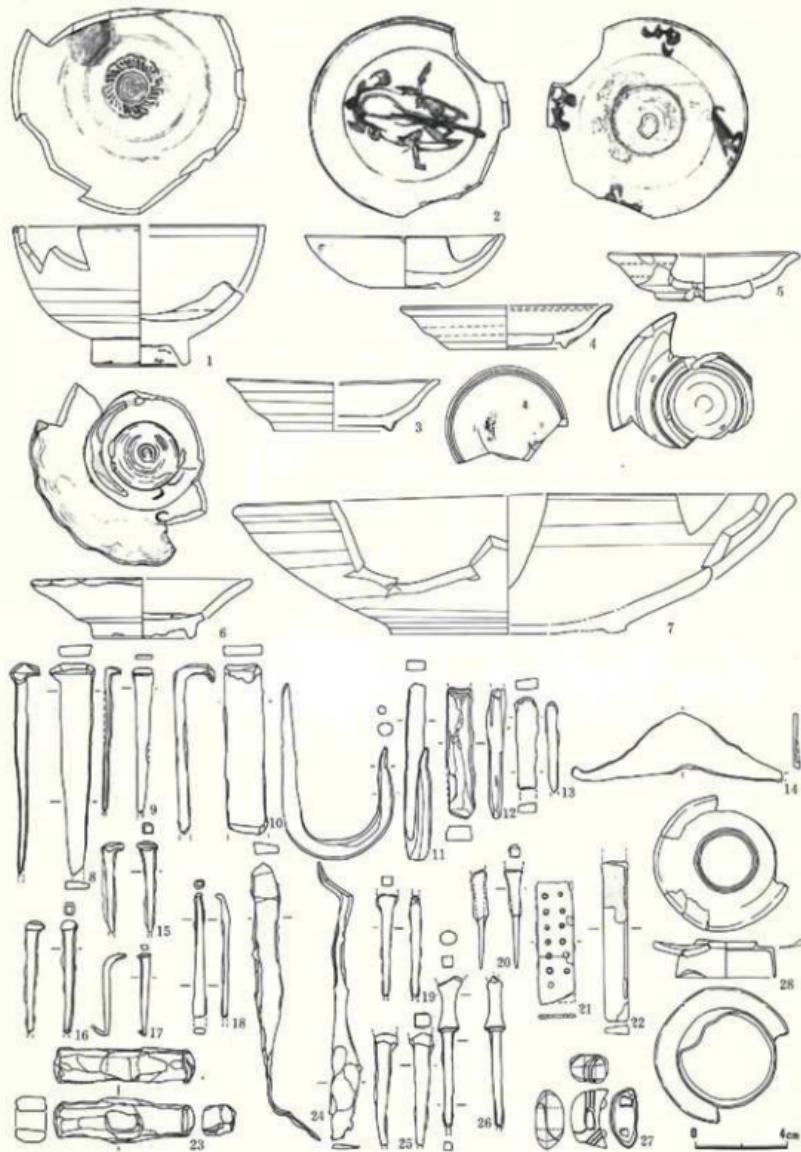
图-119 Y尾 に近い黄楊 ローム性 ややハーフ

ローム粒 砂粒数量
ローム粒数量
C微量 炭の間はい様子
ローム粒数量 シルト
(ロ)より少し暗いツヤ
ローム粒 砂粒数量
(ハ)より活性
砂粒数量

18M25土壤31北雙土層地塊



第31図 土壌・柱穴出土遺物



第32図 調査区出土遺物

III 小 括

今年度の調査によって昨91年度調査で見つかった大型の建物等が立つ空間は更に南西に広がり、その境界は段と解様の柱列によって明確に区分されることが明らかとなった。

この敷地の中央最奥部、段の直下で大きな井戸跡が見つかった。勝山館跡の水回りは寺沢地内の井戸跡、木桶を別とすれば長い間未解明のまま残されていた問題の一つであった。浪岡城や或は各地の街区等の調査での一単位毎に井戸が存在する例とは著しい差異であり、むしろこうした井戸の在り方の違いに勝山館の内部の特徴を見い出すべきであろうとしてきたところである。本年度見つかった井戸がどこに帰属し、どのように使用されていたか、大型建物跡の立つ敷地内には井戸があるということを手懸かりに検討していくこととした。

次にこの同じ敷地内の北西隅で見つかった銅鋳造、或は鍛冶加工も含めた作業跡は全く新しい知見であった(註)。今年度調査区出土銅・鉄製品は別表の如く62(除銅錢)、1,131点であり、この地区で各半数前後が集中して出土している。宇野隆夫氏のご教示によればこの地区から出土した一枚のかわらけは、その特殊な性格からしてこの地区での加工作業の内容を示唆する特徴的な遺物であり、大型建物跡の立つ敷地の一隅にこの場があることの意味を端的に示す遺物ということになる。又内田俊秀氏のご教示によれば、この場での作業は春から夏の間ぐらいいの短期間・専業鋳物師等が来所の上行ったと考えるべき内容との事であるが、当地は7月頃までは南東の「ヤマセ」が連日のように移く所であり、この北西隅の位置は火災・異臭等を考慮した占地ということができる。こうした主要な建物、屋敷の一画での鍛冶・鋳造・作業は鎌倉等本州の遺跡にも類例が見られるようである。他方鋳物師等の技術者が他所からの来訪であるとするならば、館内での需要に対する供給、或はそれらについての相互の情況(報)把握力等、その背景も考えいかなければならないが、「志苔の鍛冶屋(村)」を挙げる迄もなく勝山館・周辺の技術も更に探ることが必要であろう。

土壤47から出土した釘に木質部が残存している

ことは土壤内に木箱等の入っていることを示している。半分は石敷造構の下位になり、完備するものは石敷造構を撤去することにつながるため部分的調査にとどめて来たが、この石敷その物がこうした土壤を作った後にその上に作られたとするならば、その性格は根本から考え直す必要が出てくる。時には破壊につながることも軽て性格の解明を行うことは調査者の義務であるとのご教示を思い起し、優柔を強く自省するところである。

段や石列で区切られた南西地区は一軒して溝で地割された敷地に東西を長軸とする掘立柱と竪穴の建物が整然と立ち並ぶ一帯である。

大型建物跡の周囲に竪穴建物がないことは、この建物の性格の一端を示すのであろう。焼失した竪穴建物跡の炭化材から壁板(体)の存在が知られ、二床面に残る痕跡がそれと合致するらしいことが判り、その構造解明に新しい資料を提示した。

性格不明の土壤の一つで壇底に曲物が見つかり、10cm余の砂利が散きつめられていた。最も考え易いのは井戸であろう。前述したところでもあるが、他の造構との配置等も合わせ、勝山館跡の性格解明の一つとして検討することとした。

何れにしても出土資料と造構の関係、造構、造物のそれぞれについての整理・分析が中途の状況にあり、充分な報告となし得ないことをお詫び願いたい。

註 本造構の具体的な理解は、京都芸術文化大学内田俊秀助教授のご教示があつてはじめてできたことであった。記して感謝申し上げたい。なお下記文献を参考とした。

工藤清泰 浪岡城北館出土の銅鉄関係遺物について 浪岡城跡VII 1985

斎木秀雄 街なかの鍛冶屋と鉄物師

河野真知郎 武家屋敷によばれた鍛冶屋

(ともに)よみがえる中世3 1989)
五十川伸夫 古代・中世の鍛冶鉄物 国立歴史民俗博物館研究報告46 1992

表3 出土遺物集計表（陶磁器）

種別	舶 載					國 產								(總數)	合計	近世	總計		
	中	國			小計	額戸美濃	志野	唐津	土器	越前	洲	美濃	信濃	小計					
青磁	199	4	177	3	1	384	69	65	1						135	(519)	519	34 553	
白磁															517	0,303	1,353	9 1,362	
染付																(6)	6	6	
赤絵																(10)	10	1 11	
褐釉																2	(4)	4	4
緑	98	231	507			836	455	18	12	4	28								
盤	5		1			6													
杯		8	2			10													
香炉	2					2	2												
指鉢															312	3	315	5 320	
金銀					9	9									630	19	640	649 37 686	
袋物	1				1	2	1										1	3	9 12
その他	2					2	13	4	1	1	1					1	21	23	15 38
合計	306	244	687	3	2	1,251	539	88	13	6	29	942			14	1,631	0,887	2,882	110 2,992

表4 出土遺物集計表（鉄製品他）

種別	数量			点数	重量(g)	備考
	量	点	数			
調理具	(169)	5,378.4				
鍋	(162)	5,232.9				
火箸	(4)	39.3				
火打金	(3)	106.2				
銅器・加工具	(643)	1,983.4				
釘	(536)	1,804.1				
鍔	(5)	137.9				
鑿	(2)	41.4				
武器・武具	272	1,818.1				
小札	(238)	1,110.5				
刀子	(4)	37.7				
小刀	(24)	604.0				
繩	(5)	65.9				
鎗、附具	2	78.5				
刺突具	1	8.4				
鉤	1	70.1				
農具?	(12)	203.3				
鋤	(3)	157.8				
鍬	9	45.5				
不明	33	431.6				
合計	1,131	9,893.3				

種別	数量			点数	重量(g)	備考
	量	点	数			
武器・武具	40	102.4				
八双鉢	3	5.4				
八双金物	2	7.4				
銅器	11	26.7				
馬頭	1	2.9				
馬頭	1	6.4				
目貫	2	2.2				
釘(鉢)	9	6.3				
小柄	4	39.3				
鍔	1	5.8				
宗教具	4	127.7				
煙管	1	3.8				
銅鏡	83					
その他	17	97.8	用途不明			
計	145	(331.7)				
骨角器	1	2.3				
刺突具	(1)	3.4				
不明	20	3.7				
計	22	9.4				
土製品	9					
その他	3					
計	12					

IV 保存処理

1. 木製品

今年度は昭和63年度までにPEG含浸処理を完了した木製品541点をエタノールによる表面処理、66点はPEG含浸完了後、エタノールによる表面処理を行った。処理の内訳は箸、板材、柵、土葬墓棺材等である。

2. 鉄製品

69点の処理を行った。従来通り錆除去、エタノール脱水、パラロイドNAD-10のナフサ溶液20-30%による減圧含浸、接合等を行った。処理

の内訳は釘、錠、小札等である。

3. 銅製品

2430点の処理を行った。メス等による錆除去、エタノール脱水後ベンゾトリアゾールのエタノールの2-3%溶液による減圧含浸処理を行なった。また特に脆弱化している遺物についてはその後パラロイドNAD-10の30%ナフサ溶液による減圧含浸を行なった。処理の内訳は錢、小柄等である。

V まとめ

平成2年度、3年度の遺構確認調査で従来の勝山館跡ではみられなかった大型の建物跡の存在が明らかとなった。殊に平成3年度検出の建物跡についてには勝山館跡の建築遺構の指導をお願いしている文化学院の鈴木亘先生から「新羅之記録」にある「客殿」に比し得る建物の可能性がありそうであるとのご教示を頂戴した。

今年度の調査によって、この大型の建物跡の建てられる一画は段と柱列で明確に区切られていることが明らかとなった。その位置は前年度調査区範囲から更に4m前後南西寄りに位置していた。北東及び北西を第二平坦面端部の柵列跡まで、南東部を92年度調査区との境の段、溝とするとその面積は約1000m²にもなる。

しかも今年度調査したこの地区的南西端一帯には、井戸跡、堅穴状土壙・鍛冶・鉄造作業場跡等今迄の調査では見られなかった類の遺構が分布していた。堅穴状の大形土壙は今少し検討を加えその性格に迫りたいところである。井戸跡は上屋、作業位置、排水施設等を示す遺構等を明らかに出来ないままに終ってしまった。更にこの井戸跡をこの一画にのみ帰属させることとして、周辺の遺構の在り方に矛盾は生じないものなのか、なお留意しなければならない所である。鍛冶・鉄造作業場跡は、主要な建物の立つ区域内の一画にそれも周囲の影響を充分考慮して適地されて存在し、しかもそこに特殊な性格を付されることが多い『かわらけ』が出土したことによって、この地

区一帯の性格を照らし出す結果となつたかと推しているところである。更に前年度検出した礎石・集石・遺構、小石の並ぶ配石遺構等の性格も考えて行かなければならぬ。特に礎石・集石遺構の下位に土壤が一部見つかりそこから木質部の残存付着した釘がまとまって出土したことは、両者が一体の物であるとしたならば、この礎石建物跡の性格に大きく関わってくることであり、調査そのものの不足を示すこととなつた。又、こうしたことから前年度想定した遺物跡についても、再度検討を加える必要のあることは言うまでもない。

この地区を画する段、柱列の存在はこの区画に強い意識の存在することを示すものである。又この画線が南東の旧道路とどのような位置関係にあるのか、南西部の次の区画との取り付き方、踏み石状の配石、井戸跡との関係等、未解決の問題を残すところとなっている。礎石列と思われるものも規模等を把握することはできなかつた。

段・柱穴列南西の調査区は、敷地を画する溝によって囲まれた長方形の溝がありそこに掘立柱の建物跡、堅穴建物跡が相互に重複と建替えを経ながら存在することが想定されるところとなつたが、掘立柱の建物と堅穴の建物が溝で囲まれた同一の区画内に同時に存在するということでは必ずしも無さうである。むしろ掘立柱の建物跡とそれと対をなす(付属する)堅穴建物跡があつて、一つの地割りが形成されているという様子が想定できそうである。勿論更に土壤等の類が加わるこ

となるであろう。

掘立柱の建物は 3×4 、 3×5 間等を基本とする例が多いようであるが 3×3 、 2×3 間等の一室を想定できそうなことは、かつての館神八幡宮跡北東の段状の地割内とは、柱間寸法も含め大きく異なると推されるところである。付言すればここでの掘立柱と竪穴の建物跡との関係も今年度調査区に近いものとした方が良いのかも知れない。

竪穴の建物跡は45号竪穴の焼失材と他の竪穴の床面の痕跡から、叢の壁（板）材のあったことが推測できそうである。又茅の類を屋根又は壁に使用していることも推される。昭和63年度調査時の焼失竪穴建物跡の状況から鈴木先生が床の存在する可能性を指摘されており、次第に建物の様子が判ってきたと言えよう。

土壤に幾つかの類型のあることを想定していたが、その一つが井戸である可能性が強くなってきた。今後は同じような土層堆積を持つものの覆土中の遺物等は勿論、内部・底部等の土質・位置等を細かく検討し、明確にしていく必要がある。

柵列が台地の端部を一周することはほぼ確かであろう。場所による作り変えの回数、柱位置・柱間等更に留意していきたいところである。

勝山館の様子が幾分見えて来そうにも思えるが遺構・遺物の分析は共に不充分のままであり、なお一層の努力を期さなければならない。

今年も多くの諸機関・諸先生、諸先輩の皆様からたくさんのご厚情を頂戴しながらご迷惑をかけするばかりであった。甚だ勝手ながら増えのお力添えとご指導をお願い申し上げる次第である。

図 版



勝山館跡主体部全景（南西夷王山より）



遺構検出状況（南東から）

PL. 2 遺構検出状況他



遺物出土状況(青磁)



鍛冶・鋳造跡出土状況(銅地金・羽口)



鍛冶・鋳造跡(上)
第45号 穴建物跡(下)



遺物出土状況(染付)



土壤41 塹底(上)

井戸跡上部石積・遺物

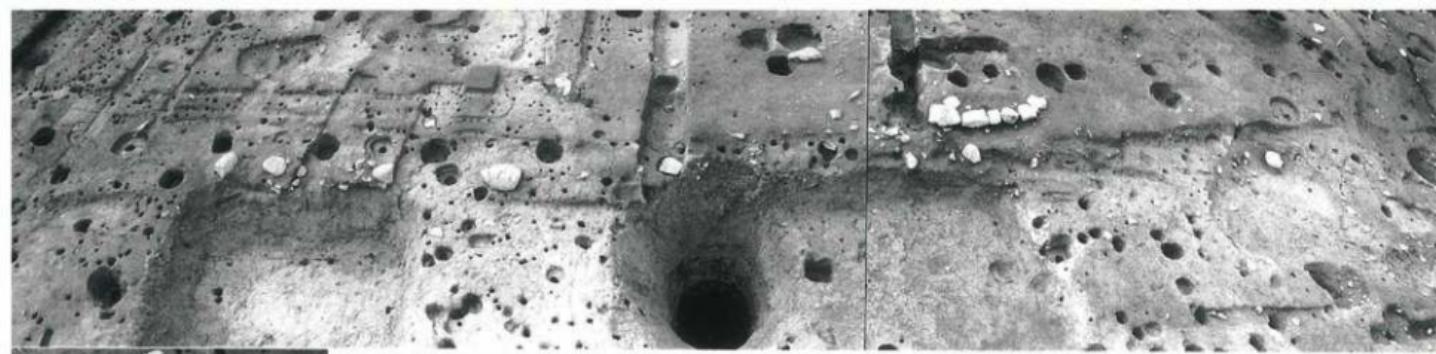


調査区全景（北東から）



調査区全景
(南西から)





1 段、柱(柵・堀?) 碓石列検出状況(北東から)
(手前中央井戸跡、左右は堅穴状土壤)



2 碓石列——柱列は未検出、炭化材・焼土が見られる



3、4 踏石状石積





砂利分布状況（東から）



砂利分布状況一右下羽口他（北東から）

鋸出土状況



礫石下断面（右）



土壤9





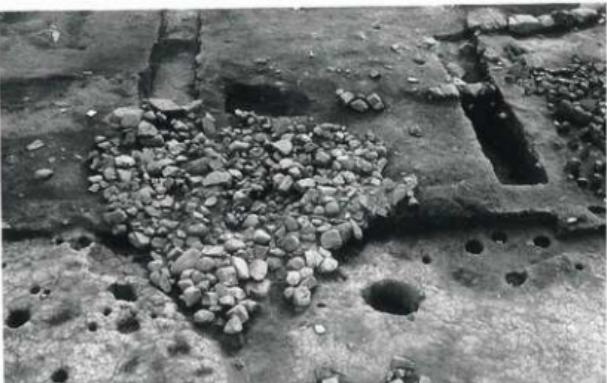
竪穴状土壤土層堆積

竪穴状土壤

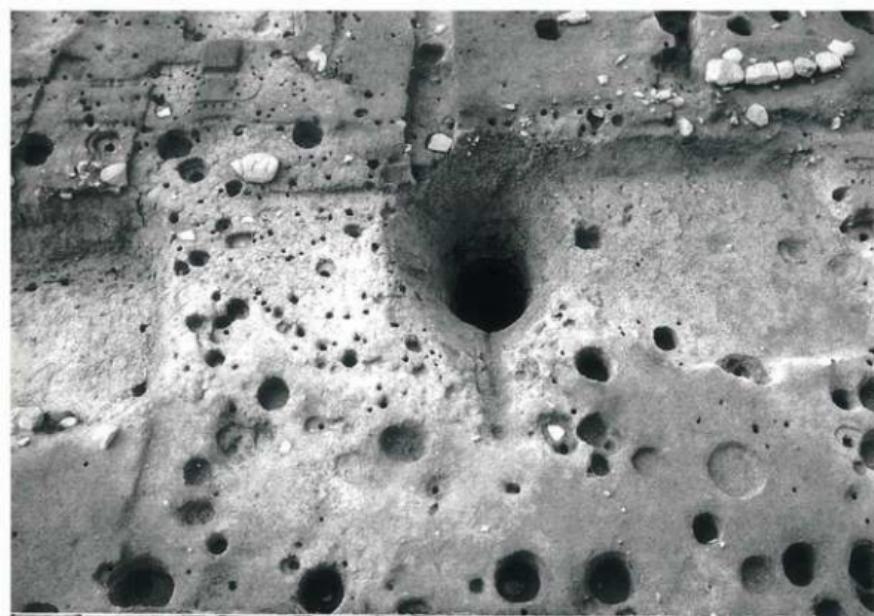


井戸跡上部土層堆積

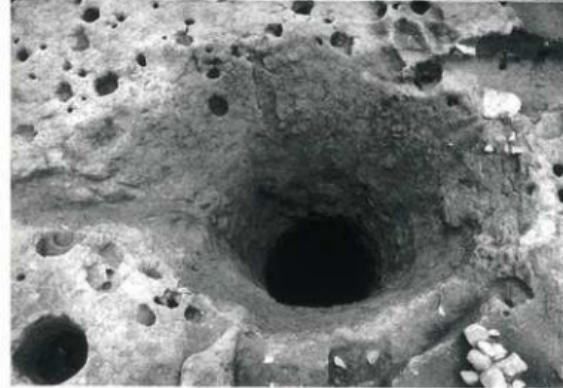
井戸跡上部集石



P.L. 8 井戸・土壤跡



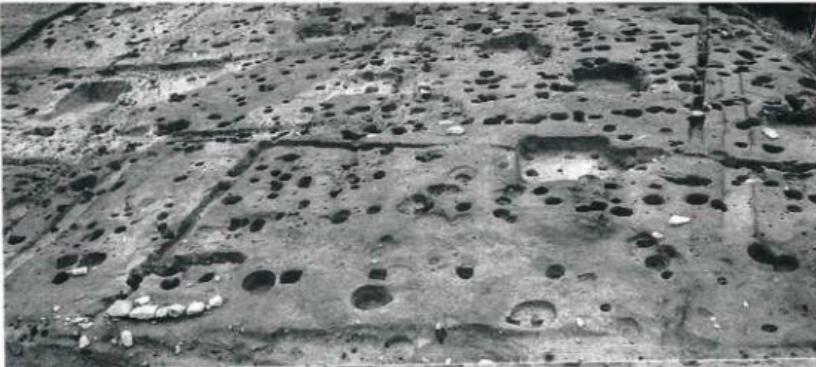
井戸跡（北西から）



井戸跡



6～9号建物跡（北東から）



1、2号建物跡（南西から）



4、5号建物跡（北東から）



3～6号建物跡（南西から）



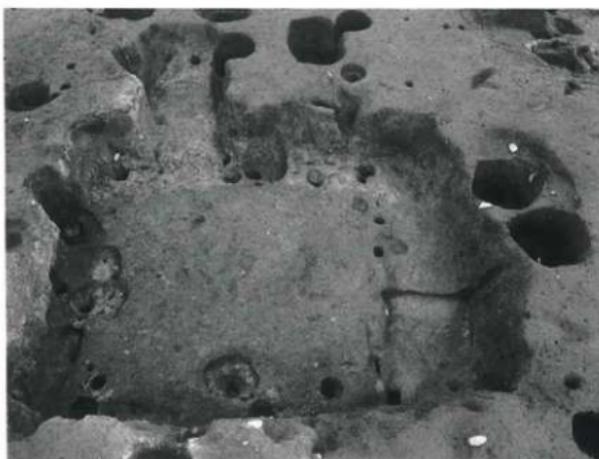
8、4、5、3、2、9、1号建物跡



7号建物跡



第45号竪穴建物（南西から）
(北東壁下等に撹板材痕跡がみえる)



出入口部、錆、銅鏡出土状況



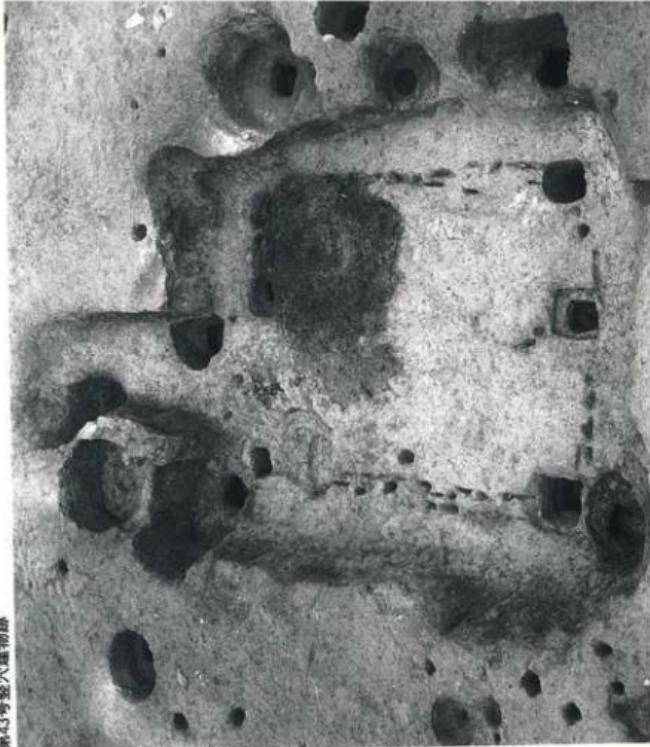
壁板材、東角半柱出土状況



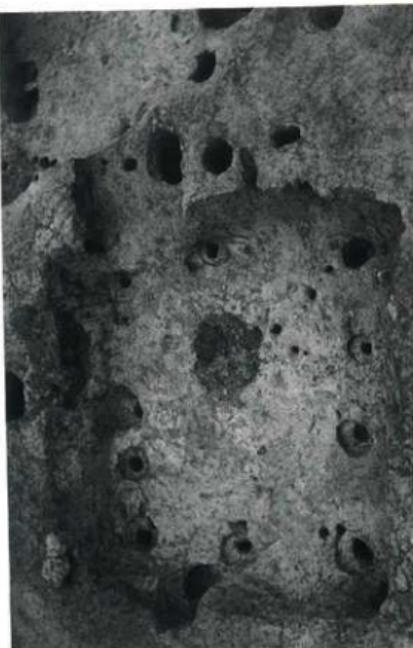
第40号竪穴建物跡



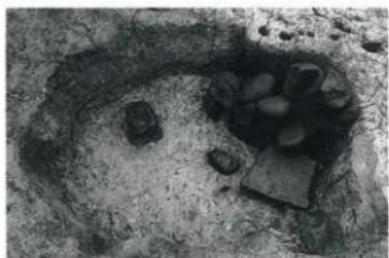
第43号竪穴建物跡



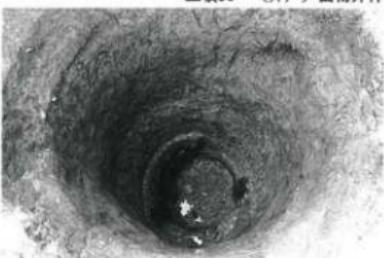
第46号竪穴建物跡



土壤31 (井戸) 曲物井枠



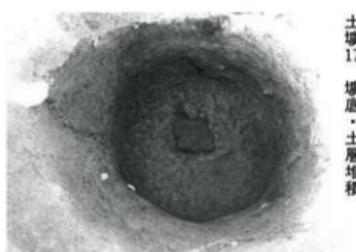
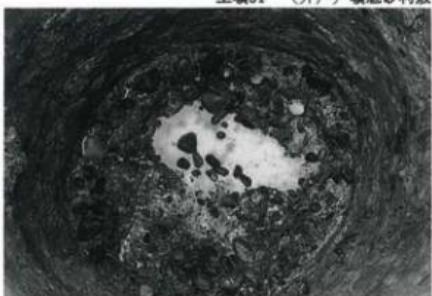
土壤20 遺物一中央右鉄鍋片



土壤31 (井戸) 塙底砂利敷



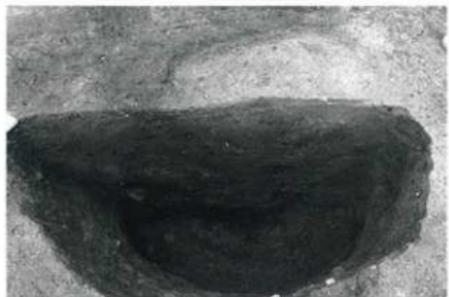
土壤20 土層堆積一左中央粘土層



土壤
17

塙底・土層堆積

土壤
7



土壤43
遺物出土状況一右内耳鉄鍋



P.L. 13
土壤13 みぞ6

遺構突出狀況
(遺構堆土上)

18L7 みぞ6 みぞ5 土塊24



みぞ6 遺物出土狀況↑

相列跡土層↓

18L7 みぞ





棚列跡検出状況

棚列跡



棚列跡みぞ上部の石列

棚列跡土層堆積



史跡 上ノ国勝山館跡 XIV

—平成4年度発掘調査環境整備事業概報—

発行 上ノ国町教育委員会

北海道松山郡上ノ国町大留100

印 刷 平成5年3月25日

発行 平成5年3月31日

印刷所 北海道機関紙印刷所



